

授業計画

(シラバス)

看護学科 8 期生
(平成 29 年度生)

学校法人 Y I C 学院

Y I C 看護福祉専門学校

〒747-0802 山口県防府市中央町 1 番 8 号

TEL 0835-26-1122

FAX 0835-26-1155

シラバス目次

分野	教育内容	授業科目	項	分野	教育内容	授業科目	項	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・ 社会の理解	生物学	1	専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	47	
		文化人類学	2			成人看護学方法論Ⅰ	48	
		情報科学	3			成人看護学方法論Ⅱ	49	
		人間関係論	4			成人看護学方法論Ⅲ	50	
		社会学	5			成人看護学方法論Ⅳ	51	
		教育原理	6			成人看護学演習	52	
		文学	7			老年看護学	老年看護学概論	53
		英会話	8				老年看護学方法論Ⅰ	54
		音楽	9				老年看護学方法論Ⅱ	55
		体育	10				老年看護学演習	56
		心理学	11			小児看護学	小児看護学概論	57
		行動科学	12				小児看護学方法論Ⅰ	58
		小児看護学方法論Ⅱ	59					
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと 回復の促進	解剖生理学Ⅰ	13	母性看護学	母性看護学概論	61		
		解剖生理学Ⅱ	14		母性看護学方法論Ⅰ	62		
		解剖生理学Ⅲ	15		母性看護学方法論Ⅱ	63		
		解剖生理学Ⅳ	16		母性看護学演習	64		
		生化学	17		精神看護学	精神看護学概論	65	
		栄養学	18			精神看護学方法論Ⅰ	66	
		病理学	19			精神看護学方法論Ⅱ	67	
		病態論Ⅰ	20			精神看護学演習	68	
		病態論Ⅱ	21		臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	69	
		病態論Ⅲ	22			成人看護学実習Ⅱ	70	
		病態論Ⅳ	23			成人看護学実習Ⅲ	71	
		病態論Ⅴ	24			老年看護学実習Ⅰ	72	
		病態論Ⅵ	25			老年看護学実習Ⅱ	73	
		微生物学	26			小児看護学実習	74	
		医療放射線学	27			母性看護学実習	75	
		臨床薬理	28			精神看護学実習	76	
	健康支援と 社会保障制度	保健医療論	29	在宅看護論		在宅看護論概論	77	
		公衆衛生学	30			在宅看護論方法論Ⅰ	78	
		社会福祉Ⅰ	31			在宅看護論方法論Ⅱ	79	
		社会福祉Ⅱ	32			在宅看護論演習	80	
		保健統計	33		看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	81	
		看護関連法令	34			看護の統合と実践Ⅱ-1	82	
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	35		看護の統合と実践Ⅱ-2	83	
			臨床看護倫理	36		看護の統合と実践Ⅲ	84	
			看護過程Ⅰ	37		統合技術演習	85	
			看護過程Ⅱ	38	臨地実習	在宅看護論実習	86	
			共通基本看護技術	39		統合実習	87	
			フィジカルアセスメント	40				
日常生活援助技術Ⅰ			41					
日常生活援助技術Ⅱ			42					
日常生活援助技術Ⅲ		43						
診療補助技術		44						
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	45						
	基礎看護学実習Ⅱ	46						

科 目	生物学	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	渡辺 雅夫	時間数	30
ねらい	人間は生命現象を営む細胞からなる構造体であること、すべての生物は自己の生命と種を継続させる特性をもっていることを学ぶ。また、生態系における人間の健康と生活は自然環境と相互に影響しあい変化することを学ぶとともに地球環境での視点を育てる。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 生物学を学ぶにあたって 1. 看護・医学の基礎科学としての生物学 II 生命体のつくりとはたらき 1. 生命の科学 2. 細胞の構造・細胞化学成分 III 生体維持のエネルギー 1. 生体内の化学反応 2. 同化作用・異化作用 IV 細胞の増殖とからだのなりたち 1. 細胞の分化とからだのなりたち V 生殖と発生 1. 生殖のしくみ VI 遺伝情報の伝達と発現のしくみ 1. 遺伝の法則と染色体 2. 遺伝情報の担い手—DNA 3. ヒトの遺伝 VII 個体の調節 1. 各器官系のはたらき VIII 刺激の受容と行動 1. 生物の電気発生 2. 環境の情報とその受け入れ 3. 行動 IX 生命の起源と進化 1. ヒトの祖先と進化 X 生物と環境のかかわり 1. 生物の集団 XI 地球環境と人の未来 1. 人口爆発 2. 環境破壊 3. ヒトの未来			講義
テキスト	系統看護学講座 基礎 生物学 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	文化人類学	展開時期	3年次後期	単位数	1
		担当教員	星野 晋	時間数	30
ねらい	異なる文化を理解することで自分自身について理解を深める。人の行動はそれぞれの文化における規範の影響を受けており、異なる生活習慣や健康観を持つ人をどのように理解し、自らの考え方や行動を変化させるべきかについて考えるきっかけを得る。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 文化人類学とは 1. 人間の総合的な探求 2. Lifeと文化 3. 文化人類学の視点と方法 II 家族 1. 親子 2. 家族 III 人の一生 1. 死生観 2. どこから人と見なすか 3. ライフステージ 4. 通過儀礼 5. イニシエーションとしての解剖実習 IV 医療人類学 1. 国際保健医療協力と文化摩擦 2. 医療は社会科学である 3. 病人役割 4. 文化摩擦としての輸血拒否 5. 病むことの物語 6. 生活者中心のヘルス・ケア 7. 少子高齢化する日本社会 8. まちづくりとしての健康づくり			講義
テキスト	参考書は随時提示				
評価方法	レポート、試験				

科 目	情報科学	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	前田 瞬	時間数	30
ねらい	看護過程において高度な情報処理能力が要求されていることから、情報科学の基礎および看護と情報科学の関連について学ぶ。また、看護とコンピューターのかかわりと利用方法について学び、コンピューターの基本的技術を身につける。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 医療と情報科学 1. 情報科学の基礎 2. 情報技術とコンピューター 3. 医療と情報システム 4. 病院情報システム 5. 看護と情報に関する倫理 II 看護と情報科学 1. 看護と情報科学基礎教育 III パソコンを用いた演習 1. パソコンの基本操作 2. 表計算ソフトの演習 3. プレゼンテーションの演習			講義 演習
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学(医学書院)				
評価方法	出席・試験・課題				

科 目	人間関係論	展開時期	1年次前・後期	単位数	2
		担当教員	林 伸一	時間数	45
ねらい	看護実践において必要となる人間関係のダイナミズムを理解する。また、目的に応じた役割関係を展開する人間関係形成能力を養う。				
単 位	時 間	内 容			授業方法
2	45	<p>I 人間関係基礎論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間存在と人間関係 2. 社会的相互作用と社会的役割 3. コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの基本概念 2) コミュニケーションの基本構造 3) 言語的・非言語的コミュニケーション 4) コミュニケーションの障害 5) 援助的コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (1) カウンセリングの考え方 (2) アイコンタクトとうなずき (3) くり返し 座り方 表現と読みとり方 6) IT機器の普及に伴う効用と問題点 4. 人間関係の研究と応用 5. 人間関係の向上へのスキル <p>II 看護における人間関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療チームの人間関係 2. 闘病生活を支える人間関係 3. 終末期の患者と家族を支える人間関係 4. 家族の人間関係と看護師のかかわり 5. ソーシャルサポートをめぐる人間関係 6. ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係 			講義及びグループ学習による演習
テキスト	配布資料				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	社会学	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	赤星 香魚	時間数	30
ねらい	社会学一般の基礎的な理論や方法、および健康・病気と保健医療の社会学(医療社会学)の理論と方法について学ぶ。また、現代社会と保健医療の世界における様々な問題や動向に注目し、健康と社会とのかかわりについて考える。これらの学習を通して、豊かな看護の実践につながる力を養う。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 社会学:健康、病気、医療への視座 1. 社会と医療の関係性 II 保健医療の現代的变化の位相 1. 医療と医療システム III 医療社会学について 1. 医療社会科学と医療社会学 IV 社会学の基礎概念 1. 社会と医療の過去と現代 V 社会学的視点とモデル 1. 保健医療と社会現象 VI 保健医療と社会学 1. 社会システムとしての医療 VII 健康・病気行動と病経験 1. 病者の視点、病人役割、病気行動、病経験 VIII 患者－医療関係者とコミュニケーション 1. 患者－医療者関係 IX 保健医療の専門職 1. 保健医療職種、専門職支配、看護職論 X 保健医療制度 1. 保健医療制度の概要と日本の特色 XI 性・ジェンダー・家族と保健医療 1. ジェンダーと医療、ジェンダーと家族 XII 地域社会と保健医療 1. 地域と医療、社会関係資本 XIII 健康・病気の社会格差 1. 格差社会論、保健医療における格差 XIV 「働き方」「働かせ方」と健康・病気 1. 保健医療と労働・生活 XV ケアと医療:新しい地平を求めて 1. ケアと医療、ケア論、これからの医療と社会の課題			講義
テキスト	系統看護学講座 基礎 社会学 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	教育原理	展開時期	3年次後期	単位数	1
		担当教員	田中 理絵	時間数	30
ねらい	教育に関する基礎知識の習得を図り、患者や家族に対して教育を実践できる能力を高める。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 子どもの発達と社会化 II 家族と子どもの発達 III 仲間集団と子どもの発達 IV 教育制度：各国における学校制度 V 教育の目的・目標 VI 学習指導：「教える」「学ぶ」とは VII 生活指導と児童・生徒指導、教育評価 VIII 学歴社会の変貌 IX マスコミュニケーションと社会化環境 X ニューメディアの課題 XI 特別支援教育の推進 XII 非行 XIII 児童虐待 XIV 教育問題の考え方と看護 XV 総括			講義
テキスト	新しい時代の教育社会学（ミネルヴァ書房）				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	文 学	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	鈴木 隆子	時間数	15
ねらい	健やかな身体と精神をバランスよく形成し、看護者として看護を実践するために、文学を通して自らの生き方を問い直すと共に、医療・保健・福祉の分野で活動した人々、詩人達の作品等から、豊かな感性を磨くとともに創造性・表現力を養う。				
単 位	時 間	内 容			授業方法
1	15	I 文学とはなにか 1. 「看」の字の心から 2. 看護師はなぜ文学を学ぶべきか 1) 日野原重明 2) 紙屋克子 3) ナイチンゲール 4) 森鷗外「高瀬舟」 II 見えないものを観る 1 1. 花のいのちを生きる星野富弘 —もう一つの哀しみから— III 見えないものを観る 2 1. ふるさとの詩人 金子みすゞ —金子みすゞのころをよむ— IV 先人たちの視点に会う 1. ノンフィクション文学・評論をどう読むか 1) 榊原什 2) 宮子あずさ 3) 病跡学の視点からの夏目漱石「悩む力」 V 見えないものを観る 3 1. アイデンティティの詩人まど・みちお —「ぞうさん」にこめられたメッセージ— VI 生と死を考える 1. 先人たちの言葉に会う 1) アルフォンス・デーケン 2) 小澤竹俊 3) 医療の今日的課題から VII 見えないものを観る 4 1. ふるさとの俳人 種田山頭火 —人の拠って立つべき場—			講義
テキスト	配布資料				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	英会話	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	Thomas Taylor	時間数	30
ねらい	臨床で活用できる実用英会話を習得し、国際化社会に対応しうるコミュニケーション能力を養う。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I Unit 1: Please speak more slowly. II Unit 1: Please speak more slowly. III Unit 2: Where are you from? IV Unit 2: Where are you from? V Unit 3: Could you tell me your address, please? VI Unit 3: Could you tell me your address, please? VII Review Test 1 VIII Unit 4: What department do you want to visit? IX Unit 4: What department do you want to visit? X Unit 5: Where is the X-ray department? XI Unit 5: Where is the X-ray department? XII Unit 6: What are your symptoms? XIII Unit 6: What are your symptoms? XIV Review Test 2 XV Unit 7: Where does it hurt? XVI Unit 7: Where does it hurt? XVII Unit 8: Have you ever had any serious illness? XVIII Unit 8: Have you ever had any serious illness? XIX Unit 9: Take one tablet, four times a day. XX Unit 9: Take one tablet, four times a day. XXI Review test 3 XXII Unit 10: Let me make an appointment for your test. XXIII Unit 10: Let me make an appointment for your test. XXIV Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. XXV Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. XXVI Unit 12: How are you feeling today? XXVII Unit 12: How are you feeling today? XXVIII Review test 4 XXIX Word Training XXX Final test			講義
テキスト	クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院）				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	音 楽	展開時期	3年次後期	単位数	1
		担当教員	モチェオ 久美	時間数	15
ねらい	健やかな精神と身体をバランスよく形成し、自己の情緒の安定を保つ力と感性を磨く。 また看護と音楽の関連を学ぶ				
単 位	時 間	内 容			授業方法
1	15	I 人と音楽 II 音楽の与える影響 III 看護と音楽の関連 1. 音楽療法 IV 音楽のジャンル V 鑑賞			講義 レコード鑑賞
テキスト	配布資料				
評価方法	出席・レポート				

科 目	体 育	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	前田 一篤	時間数	15
ねらい	スポーツや体育は、なぜ多くの国々において推進されているのだろうか？スポーツや体育の目的は単に健康のためや気晴らしのために行われてきたわけではない。本授業では、スポーツや健康に関する様々な考え方を紹介するとともに、自ら実践することによってスポーツについて多角的に考え・実践できるようになる。				
単 位	時 間	内 容			授業方法
1	15	I 体育の社会的意味 II スポーツの起源とその効果 III 健康はどうして社会的課題となったか IV 障害者とスポーツ V スポーツ実技(バレーボール1) VI スポーツ実技(バレーボール2) VII 障害者スポーツの実践 VIII スポーツ実技を作る(レクリエーション・スポーツ)			講義 実技
テキスト	配布資料				
評価方法	出席・実技・レポート				

科 目	心 理 学	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	福田 廣	時間数	30
ねらい	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、看護実践の場においてのよりよい人間関係を模索する。				
単 位	時 間	内 容			授業方法
1	30	I 心理学の問題 1. 心理学の発展 2. 心理学の研究方法 II 知覚の心理 1. 知覚の成立 2. 知覚の種類 3. 知覚研究の応用 III 記憶の心理 1. 記憶の諸相 2. 忘却の心理 感覚記憶・短期記憶・長期記憶 3. 記憶の工夫 IV 思考・想像・言語の心理 V 知能の心理と知能検査 VI 学習の心理 VII 感情・情緒・情操の心理 VIII 適応の心理 IX 性格の心理と性格検査 X 集団の心理 XI 発達の心理 1. 発達段階 発達課題 心理・社会的危機 2. 発達段階の特徴 1) 乳児 幼児 児童 青年 成熟の標準 XII カウンセリング 1. カウンセリングと心理療法 2. 危機介入 3. 面接の技術 4. 来談者中心療法 5. グループカウンセリング 6. 集団作業療法 7. レクリエーション療法 8. 認知療法 9. 行動療法 10. 家族療法			講義
テキスト	系統看護学講座 基礎 心理学 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	行動科学	展開時期	1年次後期	単位数	1
		担当教員	福田 廣	時間数	30
ねらい	人間の行動の成立と変化のメカニズムについて理解し、看護場面においてよりよい人間関係を成立、発展させるための基礎的能力を養う。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 行動科学の歴史と看護とのかかわり 1. 行動科学とは 2. 行動科学と看護理論 II 行動科学の基本概念 1. 生物学的・心理学的・社会的存在としての人間 2. ライフサイクルと発達課題 1) エリクソンの発達課題 3. 危機と対処 1) 適応と不適応 2) 危機モデル 防衛機制 III 対象理解の方法論 1. 客観的情報による対象理解 2. 対象の内面的理解:面接法 1) 面接の意義 2) 共感 沈黙の意味 3. 対象との関係性および関係性を通じた理解 1) プロセスレコード 交流分析 投影法的心理テスト IV 行動の成立変容、行動変容 1. 行動の成立と変化のメカニズム 1) 行動の成立・変容に関する基本モデル 2) 行動の成立・変容の実際 3) 治療的接近と行動変容 2. カウンセリング 1) ロジャーズの考えの発展 2) 看護場面におけるカウンセリング 3. 障害の受容 1) 障害受容のプロセス V 看護の分野における行動科学 1. 看護師の変化 2. 患者の変化 3. 看護師と患者の関係性における変化			講義 グループ学習
テキスト	健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に (医歯薬出版)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	解剖生理学 I (体の支持と運動、 栄養の消化と吸収)	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	澤田 知夫 柗 千里 笠田 由美子	時間数	30
ねらい	人体の構造・機能「体の支持と運動、栄養の消化と吸収」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	笠田 (2) 澤田 (12) 柗 (16)	I 人体の構造と機能を学ぶために II 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1. 人体とはどのようなものか 2. 人体の素材としての細胞・組織 3. 構造と機能からみた人体 III 体の支持と運動 1. 骨格とはどのようなものか 2. 骨の連結 3. 骨格筋・抗重力筋 4. 体幹の骨格と筋 5. 上肢の骨格と筋 6. 下肢の骨格と筋 7. 頭頸部の骨格と筋 8. 筋の収縮 IV 栄養の消化と吸収 1. 口・咽頭・食道の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能 3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4. 腹膜			講義
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	解剖生理学Ⅱ (呼吸と血液の循環)	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	野島 順三 柗 千里	時間数	30
ねらい	人体の構造・機能「呼吸と血液の循環」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。				
単位		内 容			授業方法
1	柗 (5)	I 呼吸の構造 1. 呼吸器の構成 2. 上気道 3. 下気道・肺 4. 胸膜・縦隔			講義
	柗 (6)	II 循環器系の構成 1. 心臓の構造 2. 末梢循環系の構造 3. リンパとリンパ管			
	柗 (3)	III 血液の組成 1. 血液組成 2. 赤血球・白血球・血小板の構造と機能			
	野島 (8)	IV 呼吸器系の機能 1. 呼吸運動 2. 換気とガス交換 3. 肺の循環と血流 4. 呼吸運動の調節 5. 呼吸器系の病態生理			
	野島 (8)	IV 循環器系の機能 1. 心臓の拍出機能 2. 血液循環の調節 3. リンパの循環			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	解剖生理学Ⅲ (体液・内臓機能の調節、 生殖・発生と老化)		展開時期	1年次前期	単位数	1
			担当教員	野島 順三 終 千里	時間数	30
ねらい	人体の構造・機能「体液・内臓機能の調節、生殖・発生と老化」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。					
単 位	時 間	内 容				授業方法
1	終 (4) 野島 (6) 野島 (10) 終 (10)	I 体液の調節と尿の生成 1. 腎臓 2. 排泄路 3. 体液の調節 II 内臓機能の調節 1. 自律神経による調節 2. 内分泌による調節 3. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 4. ホルモン分泌の調節 III 生殖・発生と老化のしくみ 1. 男性生殖器 2. 女性生殖器 3. 受精と胎児の発生 4. 成長と老化				講義
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 (医学書院)					
評価方法	出席・試験・レポート					

科 目		解剖生理学Ⅳ (情報の受容と処理、 外部環境からの防御)	展開時期	1年次後期	単位数	1
			担当教員	中村 彰治 柗 千里	時間数	30
ねらい	人体の構造・機能「情報の受容と処理、外部環境からの防御」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。					
単 位	時 間	内 容				授 業 方 法
1	中村 (20) 柗 (10)	I 情報の受容と処理 1. 神経系の構造と機能 2. 脊髄と脳 3. 脊髄神経と脳神経 4. 脳の高次機能 5. 運動神経 6. 感覚機能 7. 眼・耳の構造と機能 8. 味覚と嗅覚 9. 疼痛 II 外部環境からの防御 1. 皮膚の構造と機能 2. 生体の防御機構 3. 体温とその調節				講義
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 (医学書院)					
評価方法	出席・試験・レポート					

科 目	生 化 学	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	渡部 省二	時間数	30
ねらい	人体の構成成分である化学物質の性状やその分布及び代謝について理解する。				
単 位	時 間	内 容			授業方法
1	30	<p>I 生体を構成する物質</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学を学ぶための基礎知識 2. 糖質:種類・構造・性質 3. 脂質:種類・構造・役割 4. タンパク質:種類・構造・分類・ 5. 核酸:核酸・塩基・ヌクオレオド'とヌクレオソド'・DNAとRNA 構造 6. 水と無機質:水・酸塩基平衡・無機質の種類と生態への 関与 7. 血液と尿:構成成分と働き 8. ホルモンと生理活性物質:ホルモンの種類と作用機序 <p>II 生体内の物質代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝のあらまし:消化吸収された体内での代謝 2. 酵素:生命活動と酵素・酵素の種類と反応・酵素の応用 3. ビタミンと補酵素:種類と生理作用・ 4. 糖質代謝:代謝の機序と役割 5. 脂質代謝:資質の消化と吸収 6. タンパク質代謝:消化と吸収 7. 核酸代謝:合成と分解 8. ポルフィリン代謝:へム・ビリルビン 9. 代謝の異常:骨粗しょう症・糖尿病・資質異常症・ 高尿酸血症 <p>III 遺伝情報とその発現</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝情報 2. 先天性代謝異常 			講義
テキスト	わかりやすい生化学 (ヒロカワ)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	栄 養 学	展開時期	1年次後期	単位数	1
		担当教員	原田 綾子	時間数	30
ねらい	人間にとって栄養の意義と健康な生活を営むための適正な栄養、食事の取り方について理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 人間栄養学と看護 II 栄養状態の評価・判定 1. 栄養状態の評価・判定の意義と目的 2. 評価・判定法 III 栄養素の種類とはたらき IV エネルギー代謝 V 栄養素の消化・吸収・体内代謝 VI 栄養ケア・マネジメント VII ライフステージと栄養 1. 各発達段階における栄養・授乳期・更年期 VIII 臨床栄養 1. 病院食 2. 疾患別食事療法の実際 3. 栄養補給法 IX 健康づくり食品・食事・食生活 1. 食事と食文化 2. 食品と食品群・食品群の分類 3. 生活習慣病の予防 4. 食生活指針と健康日本21			講義 モデルによる 臨床栄養の 組み合わせ 調理実習
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 3 栄養学 (医学書院) 最新 日本食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表(日本糖尿病学会編) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	病 理 学	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	野島 順三	時間数	30
ねらい	人体組織における病的状態の原因・発生機序を理解する。				
単 位	時 間	内 容			授業方法
1	30	I 病理の基本(過形成、委縮、肥大) 1. 細胞生理学(アポトーシス、ネクローシス) 2. 死について II 腫瘍 I III 腫瘍 II IV 免疫 I V 免疫 II (自己免疫疾患、移植免疫 他) VI 炎症 VII 体液・電解質・代謝 I VIII 体液電解質・代謝 II (含酸塩基平衡) IX 感染症 X 循環障害・ショック・腎機能 他 I XI 循環障害・ショック・腎機能 他 II XII 遺伝疾患 XIII 循環器症状等の病態(不整脈・梗塞・塞栓・高血圧 等) XIV 消化器症状等の病態(便秘・下痢・嘔吐・腹痛 等) XV 神経系症状等の病態(睡眠障害・意識障害・嘔声・めまい 等)			講義
テキスト	系総看護学講座 専門分野 疾病のなりたちと回復の促進3 病理学(医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	病態論 I (呼吸器疾患、循環器疾患、 血液・造血器疾患)	展開時期	1年次後期	単位数	1
		担当教員	柗 千里 大津山 賢一郎 笠田 由美子	時間数	30
ねらい	呼吸器、循環器、血液・造血器疾患における主な疾病の原因、病態・検査・治療について理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	柗 (12)	I 呼吸器疾患 1. 症状とその病態生理: 自覚症状、他覚症状、呼吸音の聴診、呼吸の異常 2. 検査と治療・処置 3. 感染症: かぜ症候群、インフルエンザ、肺炎、結核 4. 間質性肺疾患: 間質性肺炎、サルコイドーシス 好酸球性肺炎、過敏性肺炎、塵肺 5. 気道疾患: 気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患 6. 肺血栓塞栓症 7. 呼吸調節に関する疾患: 過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群 8. 肺腫瘍: 良性腫瘍、悪性腫瘍 9. 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患: 胸膜炎、膿胸、自然気胸			講義 スライド
	笠田 (10)	II 循環器疾患 1. 症状とその病態生理: 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、ショック 2. 虚血性心疾患: メタボリックシンドローム、狭心症、心筋梗塞 3. 心不全 4. 血圧異常: 高血圧症 5. 不整脈 6. 動脈・静脈系疾患			
	大津山 (8)	III 血液・造血器の疾患 1. 症状とその病態生理: 貧血、白血球数の異常、脾腫、出血性素因 2. 検査と治療・処置: 末梢血検査、骨髄穿刺、血液型と輸血、造血幹細胞移植 3. 赤血球系の疾患: 鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血 4. 白血球系の疾患: 白血病 5. リンパ網内系疾患: 悪性リンパ腫、HIV感染とエイズ 6. 異常タンパク血症: 多発性骨髄腫 7. 出血性疾患: 紫斑病、血友病			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学3 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	病態論Ⅱ (消化器疾患、腎・泌尿器疾患、 免疫・アレルギー疾患、 外科総論・各論)		展開時期	1年次後期	単位数	1
			担当教員	大津山賢一郎 堀 由美子 両國 俊樹	時間数	30
ねらい	消化器、腎・泌尿器、免疫・アレルギー疾患における主な疾病の原因・病態・症状・治療について理解するとともに、外科的治療の基礎について学ぶ。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	両國 (10)	I 消化器疾患 1. 症状・徴候とその病態生理: 嚥下困難、腹痛、吐血・下血 腹部膨満 2. 検査と治療・処置: 糞便、肝機能、超音波、内視鏡、肝生検 放射線 3. 食道の疾患: 食道がん 4. 胃・十二指腸の疾患: 機能性胃腸症、胃・十二指腸潰瘍、胃がん 5. 腸・腹膜の疾患: 腸炎、腹膜炎、虫垂炎、ヘルニア、イレウス ポリープ、結腸・直腸がん、肛門疾患 6. 肝臓・胆嚢の疾患: 肝炎、肝硬変症、肝臓がん、膵臓がん 急性腹症				講義
	堀 (6)	II 腎・泌尿器疾患 1. 症状とその病態生理: 尿の異常、排尿症状、浮腫、電解質異常 高血圧 2. 検査と治療: 検査、透析療法 3. 腎不全、全身性疾患による腎障害 4. 原発性糸球体腎炎: 糸球体腎炎、ネフローゼ 5. 前立腺肥大症				
	両國 (6)	III 外科総論・外科各論 1. 外科的治療の基礎 1) 外科の基本手技: 清潔操作、創傷管理 2) 手術侵襲と生体の反応 3) 炎症、腫瘍 4) 外傷 5) 麻酔法: 手術前・中・後の管理、術後の疼痛管理、術後合併症と その予防 6) 酸素療法と機械的人工換気 7) 体液・栄養管理 8) 輸血療法 9) 臓器移植 2. 外科的感染対策 3. 救急処置法 4. ペインクリニック、癌性疼痛管理				
	大津山 (8)	IV 免疫・アレルギー 膠原病、感染症 1. アレルギー疾患の検査・治療と症状・疾患の理解 2. 自己免疫疾患の症状と検査・治療 3. 感染症の診断・治療と疾患の理解				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学5 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) 系統看護学講座 臨床外科看護総論 (医学書院)					
評価方法	出席・試験・レポート					

科 目	病態論Ⅲ (脳・神経疾患、運動器疾患、 内分泌・代謝疾患)		展開時期	1年次後期	単位数	1
			担当教員	柗 千里 椎木 栄一 笠田 由美子	時間数	30
ねらい	脳・神経、運動器、内分泌・代謝疾患における主な疾病の原因、病態、症状、検査、治療について理解する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	柗 (12)	I 脳・神経系疾患 1. 症状とその病態生理:意識障害、高次脳機能障害、 運動機能障害、感覚機能障害 2. 検査・診断と治療・処置 3. 脳疾患:脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、 4. 脊髄疾患:脊髄炎 5. 末梢神経障害:多発性ニューロパチー、単神経障害 末梢性顔面神経麻痺 6. 神経・筋疾患:重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、 7. 脱髄・変性疾患:パーキンソン病 8. 認知症:アルツハイマー病、脳血管性認知症				講義 スライド
	椎木 (8)	II 運動器疾患 1. 症状とその病態生理:疼痛、形態の異常、関節運動の異常 神経の異常 2. 診断・検査と治療・処置 3. 外傷性の運動器疾患:骨折、脱臼、捻挫・打撲、神経の損傷 筋・腱・靭帯などの損傷 4. 内因性の運動器疾患:先天性股関節脱臼 5. 骨・関節の炎症性疾患:骨髄炎、変形性関節症、関節リウマチ 痛風 6. 骨腫瘍および軟部腫瘍 7. 神経の疾患:脳性麻痺、ポリオ、 筋萎縮性側索硬化症(ALS) 8. 脊椎の疾患:腰部椎間板ヘルニア、変形性脊椎症				
	笠田 (10)	III 内分泌・代謝疾患 1. 症状とその病態生理 2. 内分泌疾患: 視床下部-下垂体前葉系疾患・下垂体後葉系疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患、副腎疾患、消化管ホルモン産生腫瘍 3. 代謝障害: 糖尿病、高脂血症 肥満症とメタボリックシンドローム、尿酸代謝障害 4. 内分泌疾患・代謝疾患における主な検査と治療				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学10 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝 (医学書院)					
評価方法	出席・試験・レポート					

科 目	病態論 IV (小児疾患)	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	新谷 幸恵	時間数	15
ねらい	小児期における主な疾病の原因・病態・検査・治療について理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1		I 呼吸機能の障害 1. 呼吸器系の解剖・生理 2. 主な疾患 気管支喘息 II 循環機能の障害 1. 循環器系の解剖・生理 2. 主な疾患 先天性心疾患 乳幼児突然死症候群 III 消化吸収機能の障害 1. 消化と吸収 2. 主な疾患 IV 排尿機能の障害 1. 主な疾患 V 代謝・内分泌機能の障害 1. 代謝・内分泌系の主な疾患 2. 糖尿病 VI 神経機能の障害 1. 神経系の発達 2. 主な疾患 けいれん てんかん VII 運動機能の障害 1. 主な疾患 筋ジストロフィー VIII 造血機能障害と悪性新生物 1. 造血器系の解剖・生理 2. 造血機能障害の主な疾患 3. 悪性新生物の主な疾患 IX 免疫・アレルギー性の疾患 X 感染症 1. 感染の機序 麻疹・風疹・水痘 2. 主な疾患 XI 精神機能の障害 1. 精神機能とは 2. 主な精神機能の障害 3. 子ども治療 XII 感覚機能の障害 1. 主な疾患			講義
テキスト	系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	病態論Ⅴ (女性生殖器疾患、 妊娠・分娩・新生児・産褥)	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	吉本 美恵	時間数	15
ねらい	女性生殖器、妊娠・分娩・新生児・産褥における主な疾病や異常の原因・病態・検査・治療について理解する。				
単 位		内 容			授業方法
1	15	I 女性生殖器の構造と機能 1. 外性器・外陰、内性器 II 診察・検査と治療・処置 III 疾患の理解 1. 性分化異常:半陰陽、性染色体異常 2. 臓器別疾患 外陰炎、膣炎、子宮下垂、子宮脱、子宮がん、子宮内膜症、 胎状奇胎、子宮外妊娠、卵巣腫瘍 3. 機能的疾患 月経異常、更年期障害、不妊症・不育症 4. 感染症 クラミジア感染症、HIV感染症/AIDS 膣トリコモナス症、外陰ヘルペス IV 遺伝相談 1. 出生前診断、胎児治療と遺伝子治療 V 不妊治療 VI 正常な妊娠と妊娠の異常 1. 妊娠の成立と経過 2. 流産・早産、感染症、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、 妊娠高血圧症候群 VII 正常な分娩と分娩の異常 1. 分娩の経過 2. 前期破水、帝王切開、産科出血 VIII 正常な新生児と新生児の異常 1. 新生児の生理 2. 新生児の呼吸異常、先天性異常・奇形、早産児、低出生体重児 IX 正常な産褥と産褥の異常 1. 産褥の経過 2. 復古不全、産褥熱、肺塞栓			講義
テキスト	系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	病態論VI (精神疾患)	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	渡 広子	時間数	15
ねらい	精神医学・医療の最新の基礎知識を学び、主な精神疾患、症状、検査、治療について理解する。				
単 位	時 間	内 容			授業方法
1	15	I 概論 1. 社会の動向と精神科医療の現状 II 精神症状と状態像 1. 思考の障害 2. 感情の障害 3. 意欲の障害 4. 知覚の障害 5. 知覚の変化 1) 幻覚 2) 意識とその障害 6. 記憶とその障害 III 精神障害の診断と分類 1. 診断と疾病分類 2. さまざまな疾患と障害 1) 統合失調症 2) 気分障害 3) 神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害 4) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 5) パーソナリティ障害 6) 器質性精神障害 7) てんかん 8) 知的障害・精神遅滞 9) 心理的発達の障害 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 11) 心身症 12) 心的外傷後ストレス障害 IV 精神科での治療 1. 薬物療法 抗精神病薬 抗うつ薬 抗躁薬 抗不安薬 睡眠導入剤 抗てんかん薬 抗認知症薬 抗酒薬 2. 抗精神病薬の有害反応 3. 電気けいれん療法 4. 精神療法 5. 行動療法およびリラクゼーション 6. 環境療法・社会療法 7. 集団精神療法			講義
テキスト	系統看護学講座 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	微生物学	展開時期	1年次後期	単位数	1
		担当教員	常岡 英弘	時間数	30
ねらい	微生物についての基礎知識、感染と発病、感染の予防と治療について学び、生態に及ぼす影響とその対応方法を学ぶ。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 微生物学の基礎 1. 微生物と微生物学 2. 細菌の性質 3. 真菌の性質 4. 原虫の性質 5. ウイルスの性質 II 感染とその防御 1. 感染と感染症 2. 感染に対する生体防御機構 3. 感染源・感染経路からみた感染症 4. 感染症の予防 5. 感染症の検査と診断 6. 感染症の治療 7. 感染症の現状と対策 III おもな病原微生物 1. 病原細菌と細菌感染症 2. 病原真菌と真菌感染症 3. 病原原虫と原虫感染症 4. おもなウイルスとウイルス感染症			講義
テキスト	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進3 微生物学 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	医療放射線学	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	藤岡 信彦	時間数	15
ねらい	放射線を用いた検査と放射線治療の適応と有効性、人体に及ぼす影響について学ぶ。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15	I 放射線医学の成り立ちと意義 1. 医療における放射線医学の役割 II 画像診断 1. 画像診断と看護 2. X線診断 1) X線診断の特徴、X線診断の成り立ち、X線検査の実際 2) X線診断 3. CT 1) CTの特徴、CT画像の成り立ち、CT検査の実際、CT診断 4. MRI 1) MRIの特徴、MRI画像の成り立ち、MRI検査の実際 1) MRI診断 5. 超音波検査 1) 超音波検査の特徴、超音波像の成り立ち、超音波検査の実際 2) 超音波診断 6. 核医学検査 1) 核医学検査の特徴、核医学検査のなりたち、核医学検査の実際 2) 各種核医学検査の実際と診断 7. IVR・血管造影 1) IVR・血管造影の特徴、IVRの成り立ち 2) IVRの実際 III 放射線治療 1. 放射線治療の基礎 2. 正常組織の有害反応と耐容線量 3. 治療可能比 4. 放射線治療の特徴と役割 5. 照射法の種類 1) 特殊な放射線治療 2) ガンマナイフと低異性放射線照射 全身・術中照射 3) 前立腺がん1-125小線照射 粒子線治療 IV 放射線治療と看護 1. 放射線治療における看護師の役割 2. 放射線治療中にみられる急性有害反応 V 放射線による障害と防護 1. 放射線障害 2. 放射線防護			講義 症例提示
テキスト	系統別看護講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	臨床薬理	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	山田 克弘	時間数	30
ねらい	薬物についての基礎的知識を理解し、薬物の特徴、作用機序、人体への影響について理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	<p>I 医薬品</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品とは 2. 医薬品の分類 3. 医薬品の名前 4. 医薬品に関する法律 <p>II 医薬品の作用原理とその影響</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理作用の原理 2. 体内における薬の動き(薬物動態) 3. 体内での働きに影響を与えるもの(薬理効果に影響する要因) 4. 好ましくない副作用(薬物有害反応) 5. 相互作用 <p>III 医薬品の適正な使用に向けて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品使用時に注意すること(混合の可否、保存方法) 2. 医薬品添付文書の読み方(警告と禁忌) 3. 処方から投与まで(与薬、誤薬) <p>IV 主な疾病に使用する薬</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高血圧(降圧利尿薬) 2. 心臓に作用する薬剤・血液凝固に関する薬剤 狭心症(狭心薬治療剤、硝酸薬、β遮断薬、カルシウム拮抗薬) 心筋梗塞(血栓溶解薬、抗血小板薬) 不整脈(抗不整脈薬) 心不全(強心薬、ジギタリス、カテコラミン) 3. 脂質異常症 4. 糖尿病(血糖降下薬) 5. がん、痛み(抗がん剤、鎮痛消炎剤、麻薬) 6. 感染症(抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、消毒薬等) 7. 脳・中枢神経疾患(中枢神経作用薬、てんかん薬、向精神薬 抗パーキンソン薬、脳血管障害治療薬) 8. 救命救急時(ショック、中毒薬、麻酔薬、輸液) 9. アレルギー・免疫不全(抗アレルギー薬、ステロイド薬、免疫抑制薬) 10. 消化器系疾患(消化性潰瘍薬、制吐薬、下剤等) 11. その他の症状(代謝、内分泌、血液、運動機能、皮膚等) <p>V 医療による健康被害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬害、ウイルス性肝炎、クロイツフェルト・ヤコブ病 			講義
テキスト	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進3 薬理学 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	保健医療論	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	野崎 美紀	時間数	15
ねらい	人間の生命に対する基本的理念や患者の人権及び医療人としての倫理を学び、人と保健・医療・福祉の関係を理解する。 保健・医療・福祉の現場で問われている今日的課題から新時代に求められる看護師像について考える				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15	I 医療と看護の原点 1. 命について考える 2. 健康とは 3. 病の体験 4. 癒しの行為と癒しの知 5. チーム医療とマネジメント II 医療の歩みと医療観の変遷 III 私たちの生活と健康 1. もしも私たちが病気やけがをしたら 2. 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3. 心の健康と精神医療 4. 疾病の一次予防と健康増進 5. 少子高齢化社会と世代間のきずな IV 科学技術の進歩と現代医療の最前線 V 現代医療の新たな課題 1. 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 2. 生命倫理学と臨床倫理学の展開 3. 産業社会の発展と地球環境問題 4. 医療不信から「賢い患者」へ 5. インフォームドコンセントと医療情報の開示 VI 医療を見つめ直す新しい視点 VII 保健・医療・福祉の潮流 1. チーム医療・チームケア 2. プライマリケアの新たな展開 3. 医療におけるケアの視点 4. 保健・医療・福祉システムと地域住民の役割			講義 課題学習 GW
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度1 総合医療論 (医学書院) 看護者の基本的責務 基本法と倫理 (日本看護協会出版会)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	公衆衛生学	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	岩本 美江子	時間数	30
ねらい	社会における組織的な保健活動について学び、人々の健康と生活環境の関連を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	<p>I 公衆衛生の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の理念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生の目的とその方法 2) 健康の概念と主観的健康感 3) 権利とプライマリーヘルスケア (PHC) 2. 公衆衛生の技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疫学と健康指標 2) 健康づくりを支援する新しい健康教育 3) 集団とコミュニケーションを対象とした政策立案 4) 活動計画と実践評価のプロセス 3. 医療の動向と医療保障 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療の動向 2) 医療保障制度と経済政策 4. 公衆衛生と国際化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生と国際化 2) 国際協力 3) 情報公開と生命倫理 <p>II 公衆衛生と地域保健</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域と健康 地域保健 2. 母子保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健やか親子日本21 子育てと家族 2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖の健康/権利) 3) ジェンダー 3. 学校保健 4. 成人・老人保健 5. 精神保健 6. 難病保健 <p>III 公衆衛生と環境保健</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活環境 2. 産業保健・労働環境 3. 感染症・危機管理 4. 近代公衆衛生の歩み 			講義
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 公衆衛生学 (医学書院) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	社会福祉 I (社会保障制度)	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	高木 健志	時間数	30
ねらい	社会保障の概念や対象、我が国の社会保障制度の体系とその具体的な内容、関連する施策について、理解を深める。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 社会保障制度と社会福祉 1. 社会保障制度 2. 社会福祉の法制度 II 現在社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1. 現在社会の変化 2. 社会保障・社会福祉の動向 III 医療保障 1. 医療保障制度の沿革 2. 医療保障制度の構造と体系 3. 健康保険と国民健康保険 3. 保険診療の仕組み 4. 公費負担医療 5. 国民医療費 6. 医療制度改革 IV 介護保障 1. 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2. 介護保険制度の概要 3. 介護保険制度の概要課題と展望 V 所得保障 1. 所得保障制度のしくみ 2. 年金保険制度 3. 社会手当 4. 労働保険制度 VI 社会福祉の分野とサービス 1. 高齢者福祉 障害者福祉 児童家庭福祉 VII 公的扶助 1. 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2. 生活保護制度のしくみ 1) 低所得対策 2) 近年の動向			講義 演習など
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度3 社会福祉(医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目		展開時期	3年次後期	単位数	1
		担当教員	横山 順一	時間数	15
ねらい	国民生活の実態とそれに対応する社会福祉の法制度と機能、社会福祉実践の方法について理解を深める。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15	I 社会福祉の歴史 II 社会福祉の分野とサービス 1. 高齢者福祉 2. 障害者福祉 3. 児童家庭福祉 III 社会福祉実践と医療・看護 1. 社会福祉援助とは 2. 個別援助技術(ケースワーク) 3. 集団援助技術(グループワーク) 4. 間接援助技術と関連援助技術 5. 連携の重要性			講義 演習など
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度3 社会福祉(医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	保健統計	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	岩本 美江子	時間数	15
ねらい	統計学・保健統計学の標準的技法を理解し、保健統計の正しい読み取り方、まとめ方を学ぶ。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15	I 保健統計学の基礎 1. 保健統計の必要性 2. 尺度と度数分布 3. 代表値 4. 散布度 5. 相関と回帰 6. 確立・順列・組み合わせ 7. 確立分布 8. 母集団統計値の推定 9. 仮説検定 10. 分散分析法 11. 国民保健の現状と分析 12. 統計の見方と活用の仕方 II 保健医療情報と処理 1. 衛生統計の歴史と役割 2. 衛生統計の種類 3. 衛生統計の特徴と調査法 4. 人口動態統計 1) 人口動態とは 2) 出生の動向 3) 死亡の動向 4) 生命表 5. 健康状態と受療状況 1) 有病率・罹患率 2) 受療行動・受診率			講義 演習
テキスト	やさしい保健統計学改定第5版 (南江堂) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	看護関連法令	展開時期	3年次後期	単位数	1
		担当教員	今川 晋平	時間数	15
ねらい	保健・医療・福祉に関する諸法規の概要を学び、看護師としての責任と義務を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15	I 法の概念 1. 法の概念 法の分類 衛生法 厚生行政のしくみ II 医事法 1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 3. 医師法 4. 医療法 5. 他職種の法 III 保健衛生法 1. 地域保健法 2. 健康増進法 3. その他保健衛生にかかわる法律 IV 薬務法 1. 薬事法 2. 薬剤師法 3. その他薬務にかかわる法律 V 環境衛生法 1. 生活衛生関係営業の運営の適正化および振興に関する法律 2. その他環境衛生に関する法律 VI 社会保険法 1. 健康保険法 2. 国民健康保険法 3. その他社会保険にかかわる法律 VII 福祉法 1. 社会福祉法 2. 生活保護法 3. その他福祉にかかわる法律 VIII 労働法と社会整備 1. 労働基準法 2. 労働契約法 3. その他労働にかかわる法律 4. 社会基盤整備 5. 男女共同参画社会基本法 6. その他社会基盤整備にかかわる法律 IX 環境法 1. 環境基本法 2. 大気汚染防止法 3. その他環境にかかわる法律			講義
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度4 看護関連法令 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート				

科 目	看護学概論	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	野崎 美紀	時間数	30
ねらい	看護の概念を捉え、看護の位置づけと役割を理解する。				
目標	1. 看護の理念を構成する要素について理解する。 2. 看護の歴史や看護理論を手がかりに、看護の役割と機能、看護師の倫理を考える。 3. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 看護概論 1. 看護の概念 1) 看護の主要概念 2) 看護の概念の変遷 2. 健康と看護 1) 健康の概念 2) 看護の視点からの健康 3) 人間の健康状態に影響する因子 3. 歴史の中の看護 1) 看護の歴史とこれからの看護 2) 保健師助産師看護師法 4. 看護の対象 1) 集団としての対象(国民)の健康状態 2) 看護の対象としての個人 (1) 生活体としての人間 (2) 発達・変化する人間 (3) 統一体としての人間 3) 看護の対象への社会的影響 5. 看護の機能と役割 1) 看護過程について (1) 看護過程とは何か (2) ヘンダーソンの14項目 (3) 看護診断 2) 看護活動の場について 6. 看護職者と保健医療チーム 1) 看護職者 (1) 生命倫理、職業倫理 患者の権利、看護師の倫理綱領 2) 保健・医療・福祉チームと看護チーム 3) 看護活動が行われている場所 7. まとめ 1) 看護とは何か 2) 今後各看護学へどう発展させていくか			講義 課題学習 GW レポート
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学1 看護学概論 (医学書院) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版会) 看護覚書(日本看護協会出版会) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)				
評価方法	出席・レポート・試験・授業への参加度				

科 目	臨床看護倫理	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	伊藤 悦子	時間数	15
ねらい	臨床の倫理原則・行為の構造と倫理・意志決定のプロセスを理解し、実際の臨床で発生する様々な倫理的場面に対応する基礎的能力を身につける。				
目標	1. 看護の場面で重要な徳および倫理原則を理解する。 2. 倫理に関係する言葉の意味を理解し、看護との関連について考える。 3. 事例検討から倫理的ジレンマを解決するための方法を学ぶ。 4. さまざま看護活動における倫理的課題について考える。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15 (4) (2) (2) (2) (5)	I 現代社会と倫理 1. なぜ倫理について学ぶのか 2. 倫理、道徳、法 3. 現代の医療・看護と倫理 4. 職業倫理としての看護倫理 II 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 1. 患者の権利とインフォームドコンセント 2. 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 1) 守秘義務の遵守と個人情報保護 2) 代理意思決定 3) 生殖をめぐる倫理的問題 4) 死をめぐる倫理的問題 3. 医療専門職の倫理規定 III 看護実践における倫理問題への取り組み 1. 看護の本質としての看護倫理 2. 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3. 倫理的課題に取り組むためのしくみ			講義 課題学習 GW
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学1 看護学概論 (医学書院) 看護倫理－看護の本質を探究・実践する－ (学研メディカル秀潤社) 看護者の基本的責務 (日本看護協会)				
評価方法	出席・レポート・試験				

科 目	看護過程 I (看護理論・看護過程)		展開時期	1年次後期	単位数	1
			担当教員	隅 敦子	時間数	30
ねらい	看護理論の構造や特徴を理解し、看護を実践するための基本的考え方を学ぶ。					
目標	1. 看護過程の概念および構成要素を理解する。 2. 看護理論の構造や特徴を理解する。 3. 各看護理論の中心概念を学ぶ。 4. 看護の本質は何か探究する姿勢を養う。 5. 対象を統合的に捉える視点を理解する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	30	I 看護過程とは何か 1. 看護過程の5つの構成要素 2. 構成要素の関係性 3. 看護過程を用いる利点 II 看護過程展開の基盤となる考え方 1. 問題解決過程 2. クリティカルシンキング 3. 情報分析の方法 4. 倫理的配慮と価値判断 III 看護過程の各段階 1. アセスメント 1) 看護理論と情報収集 2) アセスメントの枠組み (1)ヘンダーソン (2)オレム (3)ゴードン など IV 看護問題の明確化(看護診断) 1. 看護問題と看護診断 2. 看護問題の種類 V 関連図 VI 看護計画 1. 期待される成果 2. 看護介入方法 3. 実施・評価 VII 看護記録 1. 看護記録とは 2. 記載・管理 3. 看護記録の構成 VIII 紙上事例展開				講義・演習
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院) 経過がみえる疾患別病態関連マップ(学研) 疾患別 看護過程の展開 第4版(学研) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針(照林社) 患者さんの情報収集ガイドブック(メジカルフレンド社)					
評価方法	筆記試験・演習・出席・レポート・授業への参加度					

科 目	看護過程Ⅱ (看護過程演習)		展開時期	1年次後期	単位数	1
			担当教員	隅 敦子	時間数	30
ねらい	対象の健康上の課題を解決するための看護の展開方法を学ぶ。					
目標	1. ゴードンの理論枠組みを用いて対象を統合的に捉える。 2. 対象の健康上の課題を明確化するための考え方を理解する。 3. 関連図を記載し、対象の全体像の理解と健康上の課題を統合する過程を理解する。 4. 対象のニーズを充足するための看護計画を立案する。 5. 対象の健康上の課題を評価する視点を理解する。 6. 紙上患者へ看護過程を展開する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	30	I 機能的健康パターン 1. 健康味覚/健康管理パターン 2. 栄養/代謝パターン 3. 排泄パターン 4. 活動/運動パターン 5. 睡眠/休息パターン 6. 認知/知覚パターン 7. 自己知覚/自己概念パターン 8. 役割/関係パターン 9. セクシュアリティ/生殖パターン 10. コーピング/ストレス耐性パターン 11. 価値/信念パターン II 紙上事例展開 1. アセスメント 2. 全体像 3. 看護問題抽出 4. 看護計画 5. フローチャート 6. 関連図				講義 演習
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 経過がみえる疾患別病態関連マップ(学研) 疾患別 看護過程の展開 第4版(学研) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針(照林社) 患者さんの情報収集ガイドブック(メジカルフレンド社)					
評価方法	筆記試験・演習・出席・レポート・授業への参加度					

科 目	共通基本看護技術 (安全、コミュニケーション)	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	田中 恵美子	時間数	30
ねらい	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を修得する。				
目標	1. 看護技術の概念を理解する。 2. 看護ケアに伴う危険性とリスクマネジメントについて理解する。 3. 安全を守るためのスタンダードプリコーションについて理解する。 4. 人間関係づくりの基盤となるコミュニケーションに関する理論を学び、効果的なコミュニケーションの方法を学ぶ。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 看護技術とはどのようなものか 1. 技術とは、技能とは、技術の習得段階 2. 看護技術とは、技術における倫理 3. 看護技術の質 クリティカルシンキング EBN II 看護における安全・安楽・自立 1. 看護における安全 1) 安全に影響を及ぼす要因 2) 生活の安全確保・事故防止 (1) ヒューマンエラー (2) リスクマネジメント (3) インシデント アクシデント (4) 報告ルート (5) 患者誤認防止 3) 医療事故における法的責任 2. 看護における安楽 1) 安楽に影響を及ぼす 2) 安楽と看護技術 3. 看護における自立 1) 自立とはなにか 2) 自立と看護技術 III 生活環境と感染予防 1. 感染と感染症 2. 滅菌と消毒 3. スタンダードプリコーションの考え方 4. 感染予防の技術 手洗い法 マスクの取り扱い 手袋の取り扱い ガウンテクニック 5. 消毒薬の種類と特徴 IV 人間関係の発展とコミュニケーション技術 1. 患者－看護師関係 1) ペプロウの患者－看護師関係の発展段階 2) トラベルビーの対人関係の諸段階 2. 看護におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションが成立するとは 2) コミュニケーションが成立するための諸条件 3) 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション 3. コミュニケーション技術を発展させる 1) プロセスレコード オーランドに基づく看護過程とプロセスレコード 2) ロールプレイング			講義 GW VTR 演習
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院)				
評価方法	出席・レポート・試験・授業への参加度				

科 目	フィジカルアセスメント	展開時期	1年次後期	単位数	1
		担当教員	田中 恵美子	時間数	30
ねらい	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を修得する。				
目標	1. 生活行動から見るフィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解する。 2. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法を習得する。 3. 身体各部の形態や身体機能を正しく測定し、評価する技術を習得する。 4. 看護における観察・記録・報告の意義と方法を理解する。				
単位	時間	内 容			講義内容
1	30	I フィジカルアセスメントとは 1. 看護師の役割からみたフィジカルアセスメント 2. 看護提供の場からみたフィジカルアセスメント II 観察・フィジカルアセスメントの技術 1. フィジカルアセスメントの必要物品 2. フィジカルアセスメントテクニック 1) フィジカルアセスメントの基本原則 2) フィジカルアセスメントの5つの基本技術 (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 (4) 打診 (5) 聴診 3. バイタルサイン 1) バイタルサインとは 2) バイタルサインの測定方法 4. 系統別のアセスメント 1) 全身の概観 2) 循環機能のアセスメント 3) 神経のアセスメント 4) 反射のアセスメント 5) 感覚・知覚のアセスメント 6) 「呼吸をする」という生活行動から見るアセスメント 7) 「食べる」という生活行動から見るアセスメント 8) 「トイレに行く」という生活行動から見るアセスメント 9) 「運動をする」という生活行動から見るアセスメント 10) 「見る、聞く、話す」という生活行動から見るアセスメント 5. 身体計測 III 記録・報告の技術 1. 記録・報告の目的 2. 記録の種類 3. 記録・報告の条件 1) 情報開示と個人情報保護			講義 VTR 演習
テキスト	系統看護学講座 専門1 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院) 写真でわかる看護技術アドバンス フィジカルアセスメントディシジョン(学研)				
評価方法	出席・レポート・試験・授業への参加度				

科目	日常生活援助技術Ⅰ (環境、活動-休息の援助)	展開時期	1年次前期	単位数	1
		担当教員	田中 恵美子 隅 敦子	時間数	30
ねらい	対象の基本的欲求を捉え、安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を修得する。				
目標	1. 快適な日常生活を過ごすことができるように、生活環境を整える技術を習得する。 2. ベッドメイキングと臥床患者のリネン交換を安全・安楽に援助する技術を習得する。 3. ボディメカニクスの原理を用いて、臥床患者へ効率的な体位変換を実施する。 4. 運動と休息の意義を理解し、活動および休息を促す基本的な技術を習得する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I よい生活環境を整える 1. 看護における環境 2. 健康と生活環境 1) 空気の清浄化 2) 明るさ 3) 静けさ 4) 気候 5) 清潔 6) 感覚的満足 7) プライバシー 3. 病床環境を整える 1) 病室に必要な環境条件 2) 快適な病床環境 (1) 毎日の病床整備 (2) ベッドメイキング 4. 病床環境をととのえるために必要な技術 1) 病床整備 2) ベッドメイキング 3) リネン交換 II ボディメカニクスと体位変換 1. 姿勢と体位 2. ボディメカニクスの原理 3. 体位変換の意義 4. 体位の種類と特徴 5. 体位の安楽性、動作経済の法則 6. ボディメカニクスの原理を用いた体位変換 III 運動-休息のバランスをととのえる 1. 健康にとって運動-休息とは何か 2. 運動に関する知識 1) 健康にとって運動とは何か(代謝、活動) 2) 活動のアセスメント 3) 動かないことへの弊害 4) 褥瘡発生の危険のアセスメント 3. 睡眠に関する知識と技術 1) 健康にとって休息とは何か (リラクゼーション、安静、安心、安楽) 2) 健康と睡眠 3) 睡眠のアセスメント 4. 運動-休息のバランスをととのえるために必要な技術 1) 移動・移送 (1) 歩行・移動介助 (2) 車椅子への移動・移送 (3) ストレッチャーへの移動・移送 2) 移乗介助時の転倒・転落の発生状況 3) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法 (1) リラクゼーション			講義 GW 演習
テキスト	系統看護学講座 専門1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 写真でわかる看護技術アドバンス				
評価方法	出席・レポート・試験・授業への参加度				

科目	日常生活援助技術Ⅱ (食の援助・排泄)		展開時期	1年次前期	単位数	1
			担当教員	隅 敦子	時間数	30
ねらい	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を修得する。					
目標	1. 対象の栄養と食事に関するアセスメントの視点を理解する。 2. 対象に適した食事を、その人らしく満足に摂取できるようにするための援助技術を習得する。 3. 排泄の意義が理解できる。 4. 対象に適した排泄援助と自然な排泄を促すための基本的な技術を習得する。 5. 無菌操作の基本を習得できる。 6. 排泄を促す方法と留意点を理解する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1		I 食事援助 1. 食物を摂取する器官・栄養を吸収する器官 1) 消化器 2. アセスメント 1) 栄養状態 2) 水分・電解質バランス 3) 食欲 4) 摂食能力 5) 食生活、患者の認識・行動 3. 食事介助 1) 食事時の動作・姿勢や運動機能 2) 患者の持つ能力 3) 食事のセッティング 4. 摂食・嚥下訓練 1) 全身状態の観察 2) 意識レベル 3) 高次機能障害 4) 摂食・嚥下障害 5. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法(胃管挿入) 2) 中心静脈栄養法 II 排泄の援助 1. 便の形成と肛門 2. 尿の輸送と排尿のしくみ 3. アセスメント 1) 患者の状態の把握 2) 量・回数・性状 3) 機能障害の有無 4) 移動動作 5) 心理・社会的状態 4. 自然排泄の援助 1) トイレ・ポータブルトイレ 2) 床上排泄 3) おむつ交換 4) 陰部洗浄 5. 排便を促す援助 1) 便秘改善 2) 浣腸 3) 摘便 4) ストーマケア 6. 無菌操作 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 無菌操作の実際 3) 一時導尿・持続導尿				講義 演習
テキスト	系統看護学講座 専門1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 写真でわかる看護技術アドバンス					
評価方法	出席・レポート・試験・授業への参加度					

科 目	日常生活援助技術Ⅲ (清潔、死亡時の援助)	展開時期	1年次後期	単位数	1	
		担当教員	田中 恵美子	時間数	30	
ねらい	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を修得する。					
目標	1. 清潔の意義を理解し、身体各部の清潔を保つための基本的な技術を習得する。 2. 衣生活の意義を理解し衣生活を整える援助技術を習得する。 3. 死について考え、その人らしい死後が迎えられる援助を理解する。					
単位	時間	内 容			授業方法	
1	30	I 衣服を着た生活への援助 1. 健康時の衣生活(衣服選択) 2. 環境と衣生活の違い 3. 衣生活を整える技術 1) 寝衣交換 II 身体の清潔を保つための援助 1. 清潔の意義 2. 皮膚の構造・機能と清潔の関係 1) 皮膚の意味と清潔 2) 排泄器官としての皮膚の意味と清潔 3. 健康時の清潔を保つ方法 4. 清潔保持と個別性 1) 社会的意味 2) 文化的背景 III 清潔援助と衣交換の実際 1. 環境と身体の清潔に与える影響 2. 清潔援助による身体への影響と、爽快感への効果 3. 清潔行動のアセスメント 4. 身体の清潔を保つ技術 1) 入浴、シャワー浴 (1) 入浴前・中・後の観察 (2) 入浴の介助 2) 全身清拭 3) 部分清拭 4) 足浴・手浴 5) 陰部洗浄 6) 洗髪 (1) ケリーパット、洗髪台、洗髪車 7) 整容、整髪 8) 衣服の交換 IV 死亡時の看護 1. 日本古来の習慣 2. 危篤時・死亡時の看護 3. 死後の処置 4. 家族への配慮			講義 GW 演習	* 輸液ラインが入った患者の寝衣交換は総合技術演習で学ぶ。
テキスト	系統看護学講座 専門1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 写真でわかる看護技術アドバンス フィジカルアセスメントディンジョン(学研)					
評価方法	筆記試験・演習・出席・レポート・試験・授業への参加度					

科目	診療補助技術		展開時期	2年次前期	単位数	2
			担当教員	田中 恵美子 隅 敦子	時間数	45
ねらい	診療に伴う援助技術を安全・安楽に実施するための基礎を修得する。					
目標	1. 診療・検査時の看護師の役割を理解し、基本的な検体採取方法を理解する。 2. 吸引・吸入の目的と生体への影響を理解し、呼吸を整えるための基本的技術を習得する。 3. 創傷管理の目的を理解し、創傷の管理方法の基本的技術を習得する。 4. 洗浄の目的と生体への影響を理解し、洗浄時の援助技術を理解する。 5. 薬物療法における看護師の役割と責任を理解し、安全な与薬技術を習得する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	偶 (20)	I 診断・治療に伴う看護 1. 診察と看護 2. 検査と看護 1) 検体の取り扱い方 2) 検体の採取方法(尿、便、喀痰) 3) 検査法 尿検査、便検査、簡易血糖検査、動脈血ガス分析 胸部レントゲン II 生命活動を支える 1. 呼吸を整えるため看護 1) 呼吸のしくみと呼吸の異常 2) 呼吸を整える援助 (1) 体位・深呼吸 (2) 痰の喀出方法 (3) 吸入(ネブライザー) (4) 吸引(口腔、鼻腔) (5) 酸素吸入 2. 循環を助けるための看護 1) 循環のしくみと循環の異常 2) 循環を促す援助 3. 体温調節を助ける看護 1) 体温の恒常性 2) 罨法の意義と体温異常時の援助(高体温、低体温) (1) 冷罨法、温罨法 4. 洗浄時の看護 1) 洗浄の目的と生体への影響 2) 洗浄の方法 胃洗浄、腸洗浄、膀胱洗浄 3) 洗浄時の看護 III 創傷管理技術 1. 包帯法の目的 2. 包帯の種類と適応 3. 巻軸包帯、三角布、腹帯による包帯法 4. 包帯装着中の観察 5. 代表的な消毒薬 IV 与薬と看護 1. 与薬の目的と各職種間の責任と権限 2. 薬剤の吸収・排泄のメカニズム 3. 正しい与薬を行うための援助 1) 誤薬防止の手順に沿った与薬 2) 5Rの原則 4. 与薬の方法 1) 経口的与薬 2) 直腸内与薬 3) 塗布・塗擦法(外用薬、点眼薬、点鼻薬) 4) 注射 (1) 皮下注射 (2) 筋肉内注射 (3) 皮内注射 (4) 静脈内注射 (5) 点滴静脈内注射 (6) 中心静脈内栄養の観察・管理 5. 与薬と安全管理 1) 針刺し事故防止の対策、針刺し事故後の感染防止対策 2) 輸液ポンプの管理 6. 採血法(真空管採血、注射器による採血) 7. 輸血時の看護 1) 輸血の目的と種類 2) 輸血による身体への影響 3) 輸血前・中・後の看護				講義 VTR 演習
	田中 (26)					* 点滴静脈注射の演習は総合技術演習で行う
テキスト	系統看護学講座 専門1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 写真でわかる臨床看護技術①② (インターメディカ)					
評価方法	出席・レポート・試験・授業への参加度					

科 目	基礎看護学実習 I (生活環境、コミュニケーション)		展開時期	1年次前期	単位数	1
			担当教員	隅 敦子	時間数	45
ねらい	入院している患者の生活環境を知るとともに、対象を理解するための視点および看護の実際を学ぶ。					
目標	1. 看護活動の場である病院を知る。 2. 入院している患者の生活環境を知る。 3. 入院している患者に行われている看護の実際を知る。 4. 患者との関わりをとおしてコミュニケーションについて考える。 5. 看護師に必要な態度を養う。 6. 実習をとおして看護について考える。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	45	I 比較的安寧な患者を受け持つ。 (事前に、臨床指導者・指導教員で患者を決定し了解を得る) II 受け持ち患者をとおして環境について考える。 III 環境の調整をする 1. 環境整備 1) ベッドメイキング、リネン交換 IV 患者を理解するための視点を学ぶ 1. 脈拍・体温・呼吸・血圧の測定 2. ゴードンの枠組みを用いて観察・アセスメントする V 看護師に同行し、看護についての理解を深める。 VI 援助の記録・報告。 1. 援助した内容を、記録する。 2. 受け持ち看護師に、適切な報告を行う。 VII 全体反省会 1. 他者の経験を通して、学習を深める。 *具体的には実習要綱参照				実習 GW 発表会
テキスト						
評価方法	基礎看護学実習 I の評価表に基づいて行う					

科 目	基礎看護学実習Ⅱ (アセスメント実習)	展開時期	1年次後期	単位数	2
		担当教員	隅 敦子	時間数	90
ねらい	対象の健康上課題を解決するための看護過程の展開方法を学ぶ。				
目標	1. 対象の情報を収集できる。 2. 対象の健康上の課題とその原因・誘因を捉え、患者の全体像をつかむことができる。 3. 援助計画に基づいて日常生活援助が実施できる。 4. 対象との関わりをとおして、よい人間関係を築くためのコミュニケーションを学ぶ。 5. 継続看護の必要性を認識し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。 6. 看護師に必要な態度を養う。 7. 実習をとおして自己の考えを表現できる。				
単位	時間	内 容			授業方法
2	90	I 看護に必要な情報収集を行う。 1. 診療記録・コミュニケーション・観察・測定・他者からの情報収集 II 患者の反応のアセスメントをする 1. ゴードンの健康パターンの理論に基づいてアセスメントを行う。 III 健康上の課題を明らかにする。 IV 看護上の課題の原因・誘因のアセスメントを行う。 V 患者の全体像を総合的に表現する。 VI 援助計画を立案し、日常生活援助を実施する。 VII 援助した内容を記録し、適切に受け持ち看護師に報告する。 VIII 患者とのコミュニケーション場面を振り返る。 IX 実習を通して、看護についての考えをまとめる。 *具体的には実習要綱参照			実習 GW 発表会
テキスト					
評価方法	基礎看護学実習Ⅱの評価表に基づく評価				

科目	成人看護学概論	展開時期	1年次後期	単位数	1
		担当教員	笠田 由美子	時間数	30
ねらい	成人期にある人の特徴と成人看護の目的、役割を理解する。				
目標	1. 成人が、心身ともに成長・成熟し、社会的役割の担い手として生涯発達する過程を理解できる。 2. 成人の健康について、生活の視点から多面的に包括的に捉えることができる。 3. 成人期にある人の特性を考慮し、よりよい健康状態を目指すことを支え促す看護の基本的アプローチについての考え方や方法論について理解できる。 4. 成人期にある人のヘルスプロモーションと健康を増進するための支援について理解できる。 5. 健康生活をおびやかすさまざまな要因を知り、生活行動がもたらす健康問題とその予防について理解できる。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 成人の生活と健康 1. 対象の理解・対象の生活の理解 1) ライフサイクルにおける成人期とは 2) 成人期の発達課題と社会的役割 3) 青年期の特徴(身体・心理・社会的発達)と健康問題 4) 壮年期の特徴(身体・心理・社会的発達)と健康問題 5) 中年期の特徴(身体・心理・社会的発達)と健康問題 II 生活と健康 1. 生活からとらえる健康 1) 日常生活、健康の状況 2. 生活と健康を守り育むシステム 1) 保健・医療・福祉システムの概要 2) 保健・医療・福祉システムの連携 III 成人への看護アプローチの基本 1. 生活のなかで健康行動を生み、育む援助 1) 学習と行動形式 2) 行動変容を促す看護アプローチ 2. 患者中心のチームアプローチと看護師の役割 3. 看護におけるマネジメントの役割・機能 1) リスクマネジメント 2) 看護師の倫理規定と看護実践における倫理的判断 3) 意思決定支援 4) 家族の機能と家族支援 IV 成人の健康レベルに対応した看護 1. ヘルスプロモーションと看護 1) 個人の主体的な健康づくり 2) 健康増進のための健康づくり 2. ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 V 健康をおびやかす要因と看護 1. 健康バランスの構成要素 2. 健康バランスに影響を及ぼす要因 3. 生活行動がもたらす健康問題とその予防			講義 演習 GW
テキスト	系統看護学講座 専門5 成人看護学総論(医学書院) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	成人看護学方法論Ⅰ (急性期・周手術期看護)		展開時期	2年次前期	単位数	2
			担当教員	両國 俊樹 笠田 由美子 堀 由美子	時間数	45
ねらい	生命の危機状態にある成人・家族、および手術を受ける成人・家族に対する生命維持、苦痛の緩和、早期回復へむけた看護を理解する					
目標	1. 急性期の概念と看護の役割・目的を理解する。 2. 急性期にある人の特徴を理解する。 3. 急性期の機能障害に応じた看護を理解する。 4. 周手術期看護の役割を理解する。 5. 手術侵襲による生体反応と回復促進への看護を理解する。 6. 代表的な術式と患者への看護を理解する。					
単位	時間	内 容				授業方法
2	両國 (38) 笠田 (6) 堀 (2)	I 急性期にある人の特徴と看護の役割 1. 健康の急激な破綻 2. 急激な健康破綻をきたした人の看護 II 急性期にある人への看護援助 1. 呼吸機能障害 1) 気胸: 低圧胸腔内持続吸引・胸腔ドレナージ中の看護 2. 循環機能障害 1) 急性心筋梗塞: 心臓カテーテル検査・治療時の看護 ペースメーカー植え込み時の看護 循環器用薬の管理と服薬指導 3. 消化機能障害 1) 胃潰瘍・十二指腸潰瘍(消化管出血): 消化管出血時の看護 消化管内視鏡検査時の看護 4. 感覚機能障害 1) 熱傷 III 周手術期の看護 1. 周手術期患者の特徴と看護の特徴 1) 麻酔・手術侵襲と生体反応 2) 手術を受ける患者・家族の心理、インフォームドコンセント 2. 手術前の患者の看護(外来での看護・入院から手術当日までの看護) 1) 手術における事故防止 3. 手術中の患者の看護 1) 手術・麻酔による影響と援助、手術体位とその影響 4. 手術後の患者の看護 1) 術後回復促進への看護(身体的変化とアセスメント、疼痛管理) 2) 術後合併症の発生機序と予防、術後合併症発生時の対処 3) 自己管理にむけた援助 IV 代表的な術式と看護 1. 開頭術(脳動脈瘤) 2. 開胸術(肺がん) 3. 開腹術(胃がん・直腸がん) ストーマ造設 4. 乳がん手術 5. 頭頸部手術(喉頭がん) 気管切開 6. 腹腔鏡下手術 VI 集中治療を受ける患者の看護の特徴と役割 V 救急救命時の看護 1. 心肺停止状態への対応、気管内挿管時の援助、人工呼吸器装着の援助 2. 急性中毒への対処、ショックへの対応、外傷・骨折・熱中症の応急処置				講義 VTR GW
テキスト	系統看護学講座 成人看護学1 成人看護学総論(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学3 循環器(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学5 消化器(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)					
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢					

科目	成人看護学方法論 Ⅱ (回復期看護)	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	東 真由美 加藤 善範 谷川 郁代 社河内 恵	時間数	30
ねらい	健康障害からの回復過程にある成人やその家族に対する慢性化予防、生活行動の再獲得、社会復帰を目指した看護を理解する。				
目標	1. リハビリテーションの意味と看護師の役割について理解する。 2. リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解する。 3. 機能障害に応じたリハビリテーション看護を理解する。 4. 理学療法・作業療法・言語療法の実際を知り回復期における具体的な看護技術を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	東 (20)	I リハビリテーションの定義と看護 1. 障害者の定義とリハビリテーション 2. リハビリテーション医療システム 3. リハビリテーション看護の概念 身体機能維持・回復を促す看護援助 障害受容、セルフケアへの援助、家族への援助 社会資源の活用 II 機能障害に応じたリハビリテーション看護 1. 運動機能障害のある人の看護 1) 骨折 観血的整復術における看護 人工関節置換術における看護 2) 脊髄損傷 脊柱手術後の看護、ミエログラフィ時の看護 排泄障害への看護 性機能障害への看護 2. 脳神経機能障害のある人の看護 1) 脳血管疾患(脳梗塞) 運動機能障害、摂食・嚥下障害 失認、失行、知能・記憶障害 構音障害、失語 3. 感覚機能障害のある人の看護 III リハビリテーション看護における理学療法・作業療法・言語療法 1. 理学療法 1) 関節可動域測定・訓練 2) 徒手筋力検査、筋力増強訓練 3) 日常生活動作 4) 呼吸理学療法 2. 作業療法 1) 片麻痺における日常生活動作の訓練と介助法(歩行補助具・自助具) 2) 脊髄損傷時の日常生活動作訓練と介助法 3. 言語療法・嚥下ケア 1) 言語機能障害の心身・日常生活への影響 2) 失語・構音障害の生活訓練と援助 3) 咀嚼・嚥下障害の観察とアセスメント 4) 咀嚼・嚥下訓練			講義 VTR GW 演習
	加藤 (4)				
	谷川 (2)				
	社河内 (4)				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学1 成人看護学総論(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学10 運動器(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経(医学書院) 写真でわかるリハビリテーション看護(インターメディカ)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	成人看護学方法論Ⅲ (慢性期看護)	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	東 真由美	時間数	30
ねらい	慢性の経過をたどる成人・家族への症状看護、およびセルフケアへの看護、再発予防のための看護を理解する。				
目標	1. 慢性期の概念と看護師の役割を理解する。 2. 慢性にある人の特徴を理解する。 3. 慢性期にある人の健康の維持・増進のためのセルフケアを支援する看護を理解する。 4. 慢性期にある人への症状マネジメントのためのアプローチを理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 慢性期にある人の特徴と看護の役割 1. 慢性期にある人の心理・社会的特徴と看護理論 1) 病みの軌跡、不確かさ、変化のステージモデル 2) コンプライアンスとアドヒアランス 2. 慢性期にある人と家族 3. 慢性疾患患者のセルフケアとQOL 1) 症状看護、生活支援 2) 疾病受容、自己管理への援助 3) 社会資源の活用、特定疾患治療研究事業 4) 家族介護者への支援 II 機能障害に応じた慢性期看護 1. 栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者の看護 1) 慢性肝炎・肝硬変 (1) 肝生検時の看護、インターフェロン療法時の看護 (2) 食道静脈瘤硬化療法時の看護 (3) 肝性脳症予防と生活指導 2) 糖尿病患者への看護 (1) 血糖・尿糖測定、インスリン療法への看護 (2) 食事療法・薬物療法・運動療法への看護、日常生活指導 2. 内部環境調節障害のある患者の看護 1) 慢性腎不全 (1) 透析療法導入・維持への看護 (2) 血液透析・腹膜透析の管理 (3) 慢性腎不全の病期に応じた生活指導 2) 甲状腺機能異常 (1) 甲状腺機能検査、甲状腺切除術を受ける患者の看護 (2) ホルモン療法時の看護 3. 生体防御機能障害のある患者の看護 1) HIV感染者・AIDS患者の看護 2) 膠原病(全身性エリテマトーデス)患者の看護 3) アレルギー疾患患者の看護 4. 感覚機能障害のある患者の看護 1) メニエール病			講義 VTR GW 演習
テキスト	系統看護学講座 成人看護学1 成人看護学総論(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学5 消化器(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学14 耳鼻咽喉(医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	成人看護学方法論Ⅳ (がん看護・ターミナル期看護)	展開時期	3年次前期	単位数	1
		担当教員	吉本 美恵 東 真由美 原 淳子 金子 美幸 三上寿美恵 田中 勝男	時間数	15
ねらい	がん治療を受ける成人・家族の特徴および看護の方法を理解する。ターミナル期にある成人・家族の特徴を理解し、身体的・心理的苦痛の緩和にむけた看護を理解する。				
目標	1. ターミナル期にある成人と家族の特徴と看護援助を理解する。 2. 緩和ケアの実際を知り、がん看護についての考察を深める。 3. ターミナル期にある人と家族のもつ力を支える看護について理解する。 4. 放射線療法・化学療法を受ける人の看護を理解する。 5. 血液・造血器障害、女性生殖器障害のある成人と健康問題に対する看護を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	東 (4)	I ターミナル看護学 1. ターミナルケア・緩和ケアとは 2. ターミナル期にある人の特徴と理解 1)ターミナル期にある人のQOL 2)死の受容過程 3. ターミナル期にある人への看護援助			講義 GW
	原 (4)	II 緩和ケア病棟における看護の実際			
	金子 (2)	III ターミナル期にある人と家族のもつ力を支える看護 1. スピリチュアルケア 2. 予期悲嘆へのケア 3. がん看護における倫理 4. 終末期をむかえる人の看護			
	三上 (2)	IV がんの治療を受ける人の看護 1. 放射線療法を受ける人の看護 2. 化学療法を受ける人の看護 化学療法を受ける人の看護の実際 3. がん治療における看護の重要性 1)がんリハビリテーションの支援			
	東 (2)	V 骨髄性白血病患者の看護 1. 急性・慢性骨髄性白血病患者の看護 2. 骨髄移植の看護・幹細胞移植時の看護			
	吉本 (2)	VI 女性生殖器の障害をもつ患者の看護 1. 女性生殖器の機能と症状 2. 検査時の看護 3. 子宮がん・卵巣がん患者の看護 4. 子宮・卵巣摘出術時の看護			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学1 成人看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	成人看護学演習	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	東 真由美 両国 俊樹	時間数	30
ねらい	成人期の健康障害を持つ対象を全人的に捉え必要な看護を行うための看護技術を修得する。				
目標	1. 回復期にある成人の看護に必要な看護技術を修得する。 2. 慢性期にある成人の看護に必要な看護技術を修得する。 3. 急性期にある成人の看護に必要な看護技術を修得する。 4. 手術を受ける人の術前・術後における看護技術を修得する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	東 (12) 両国 (18)	I 回復期看護過程 1. 事例: 脊髄損傷の成人患者 1) 看護計画の立案 2. 事例の特性に応じた技術演習 1) 二次障害予防と日常生活動作の自立のための援助 II 慢性期看護過程 1. 事例: 糖尿病をもつ成人患者 2. 事例の特性に応じた技術演習 1) インシュリン療法(低血糖、高血糖)生活の改善計画と指導 インシュリンの種類 インシュリン自己注射の方法 インシュリンの投与方法と観察 簡易血糖検査 2) フットケアの指導 指導計画 III 急性期看護技術演習 1. 事例: 急性心筋梗塞 循環器疾患に対するフィジカルアセスメント 十二誘導心電図検査、モニター心電図の管理 ショックへの対応 人工呼吸器の管理 2. 一次救命処置(BLS) IV 周手術期看護 1. 事例: 大腸がんで人工肛門造設を受ける患者 2. 事例の特性に応じた技術演習 V 術後合併症予防のための看護技術 1. 術前オリエンテーション(呼吸法、弾性ストッキング) 2. 体位ドレナージ、排痰法 3. 創傷の管理・観察・胸腔ドレナージ 4. 意識レベルの把握 5. 術前・術後のフィジカルアセスメント			講義 GW 演習
テキスト	系統看護学講座 成人看護学1 成人看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学3 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学5 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 臨床外科看護総論 (医学書院) 写真でわかるリハビリテーション看護(インターメディカ) 写真でわかる臨床看護技術II (インターメディカ)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科 目	老年看護学概論	展開時期	1年次後期	単位数	1
		担当教員	河村 晶子	時間数	30
ねらい	高齢者の特徴を理解し、生活と健康課題を統合しながら老人保健の動向、健康の維持増進、疾病の予防、あわせて高齢者を取り巻く家族や地域の支援システムについて学ぶ。				
目標	1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. 高齢者を取り巻く社会について理解する。 3. 高齢者看護の特性や老年看護にかかわる諸理論・倫理について理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30 (12)	I 高齢者の理解 1. 高齢者とは 2. 高齢者の特徴と理解 3. 高齢者にとっての健康 4. 高齢者とQOL 5. 加齢に伴う変化 1) 身体機能の生理的变化 2) 心身の虚弱化 3) 認知能力の変化 4) 社会的機能の変化 6. 高齢者の理解とコミュニケーション (6) II 高齢者をとりまく社会 1. 高齢者と家族 2. 高齢者を支える制度・社会資源 (6) III. 高齢者看護の基本 1. 高齢者看護の特性 2. 高齢者看護にかかわる諸理論 1) ノーマライゼーション 3. 高齢者看護における倫理 4. 高齢者に対するアセスメント 5. 高齢者のバイタルサインの特徴 (2) IV. 高齢者のヘルスプロモーション 1. 高齢者の健康づくり (4) 演習: 老年者疑似体験			講義 VTR 講義・演習 「高齢者になっ てみよう」 疑似体験学習 :グループワ ークし、意見 交換 授業外 レポート
テキスト	ナーシンググラフィカ26 老年看護学 高齢者の健康と障害(メディカ出版) ナーシンググラフィカ27 老年看護学 高齢者看護の実践(メディカ出版) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科 目	老年看護学方法論 I (健康レベルに応じた看護)		展開時期	2年次前期	単位数	1
			担当教員	河村 晶子	時間数	30
ねらい	高齢者の健康障害の特徴と生命や生活への影響を理解し、その人らしい生き方ができるように家族を含めた看護を学ぶ。					
目標	1. 高齢者に多い症状のアセスメントの視点とセルフケア支援について理解する。 2. 高齢者の健康障害の特徴を理解する。 3. 高齢者にある人の健康障害に対する診断・治療過程における看護を理解する。 4. 終末期にある高齢者の看護を理解する。					
単	時間	内 容				授業方法
1	30	I 高齢者に多い疾患と看護 (2) 1. 肺炎・慢性閉塞性肺疾患と看護 (4) 2. パーキンソン病と看護 (転倒予防) (4) 3. 骨・関節系疾患と看護(変形性膝関節症・骨粗鬆症) (痛み・しびれ) (4) 4. 前立腺肥大症と看護(失禁ケア・せん妄) (4) 5. 心不全と看護 (脱水) (4) 6. 感染症と看護(ノロウイルス・疥癬) (皮膚そう痒症) (4) 7. 聴力・視力障害(難聴・白内障) (4) II 終末期にある高齢者と家族の看護 1. 臨死期の看護 2. 高齢者の死亡場所の変化 3. 病院で死を看取る家族への援助 4. 施設における看取り 5. 死の準備教育				講義 VTR GW
テキスト	ナーシンググラフィカ26 老年看護学 高齢者の健康と障害(メディカ出版) ナーシンググラフィカ27 老年看護学 高齢者看護の実践(メディカ出版)					
評価方法	出席・試験・授業への参加姿勢					

科 目	老年看護学方法論Ⅱ (要介護高齢者の看護)		展開時期	2年次後期	単位数	1
			担当教員	河村 晶子	時間数	30
ねらい	認知症および身体可動性の障害に焦点を当て、生活機能の観点から老年期にある対象への看護を学ぶ。					
目標	1. 認知症高齢者の看護を理解する。 2. 身体可動性障害のある高齢者への看護を理解する。 3. 高齢者の生活機能をみる視点とケア過程を理解する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	30 (14)	I 介護を必要とする老年期にある人の看護 1. 認知症高齢者への看護 1) 認知症ケアの歴史 2) 認知症の病態と要因 3) 認知機能の評価方法 4) 認知症の予防と治療 5) 認知症高齢者とのコミュニケーション 6) 認知症の療法的アプローチ 7) 認知症高齢者を取り巻く環境と環境調整 8) 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム 9) 認知症高齢者の人権と権利擁護 (8) 2. 身体可動性障害のある高齢者への看護 1) 寝たきりの原因・弊害・予防 2) 日常生活自立・寝たきり予防への援助 3) 寝たきり状態にある人への援助 4) 褥瘡ケア (8) II 生活機能から高齢者を捉える視点 1. 国際生活機能分類(ICF)				講義 VTR GW
テキスト	ナーシンググラフィカ26 老年看護学 高齢者の健康と障害(メディカ出版) ナーシンググラフィカ27 老年看護学 高齢者看護の実践(メディカ出版)					
評価方法	出席・試験・授業への参加姿勢					

科 目	老年看護学演習	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	河村 晶子	時間数	15
ねらい	健康障害のある高齢者に対して看護を実践するために、事例をもとに臨床現場を想定した看護展開と看護技術を学ぶ。				
目標	1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴をふまえて看護過程を展開する。 2. 老年看護に必要なフィジカルアセスメント・看護技術を修得する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15 (6)	I 看護過程の展開と技術演習 1. ICFの視点での看護過程演習 1) ICFの構成要素(健康状態・生活機能・環境因子・個人因子) 2) 要介護高齢者(認知症・脳血管疾患後遺症など)の事例展開 (9) II 高齢者に用いることの多い技術演習 1. フィジカルアセスメント 2. 失禁ケア 3. 自動・他動運動 4. 褥瘡ケア 1) 危険因子の評価 2) 褥瘡の状態の評価 3) 褥瘡の状態に応じた褥瘡ケア			演習
テキスト	ナースンググラフィカ26 老年看護学 高齢者の健康と障害(メディカ出版) ナースンググラフィカ27 老年看護学 高齢者看護の実践(メディカ出版)				
評価方法	出席・試験・授業への参加姿勢				

科目	小児看護学概論	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	田中 三千子	時間数	30
ねらい	小児各期の成長・発達の特徴と、小児と家族を取り巻く社会の変化を理解し、小児看護の課題を明らかにする。 健康な小児の成長・発達を理解し、健康な小児の発達を促進するための援助方法を学ぶ。				
目標	1. 歴史的・社会的発展の中で子どもを理解し、小児医療の発展に伴う小児看護の専門的機能と役割と特徴について理解する。 2. 子どもの権利と親の権利をふまえた小児看護のあり方について理解する。 3. 小児の発達や健康の維持・回復に大きく影響する家族について理解し、家族アセスメント方法および子どもと家族を取り巻く社会の影響について理解する。 4. 小児の成長発達を理解し、健康を促進するための援助方法を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30	I 小児看護学で用いられる概念と理論 1. 小児看護とは 1) 小児看護の対象・目的、子どもの最善の利益を目指した看護 2. 小児看護の歴史と意義 1) 小児看護の歴史、小児看護の課題 3. 子どもの権利と看護 1) 子どもの権利とは、子どもの人権、子どもの虐待・ネグレクト 2) 小児医療と子どもの権利、小児看護と倫理的配慮 4. 小児看護と法律・施策 1) 子どもを取り巻く社会環境、母子保健施策、 2) 小児に関する法律(児童福祉法、児童憲章、子どもの権利条約、 3) 母子保健法、学校保健法、児童虐待防止法) 5. 小児看護で用いられる理論 1) セルフケア理論、エリクソン自我発達理論、 2) ピアジェの認知発達理論、親子関係論、家族理論 II 子どもの成長・発達と看護 1. 成長・発達の原理 1) 成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する要因 2. 各期の子どもの成長・発達と課題 3. 発育の評価 4. 小児期における成熟(発達)や状況に伴う危機と対処 5. 小児の発達と健康を促進するための援助法 1) 発達アセスメント(母子関係や家族関係形成への援助) 2) 発達課題に応じた日常生活への援助 (1) 新生児・乳児の生活と援助 ① 栄養・調乳・離乳・排泄・清潔・抱き方、移送(沐浴は母性で) (2) 幼児の生活と援助 ① 成長・発達、健康状態に応じた日常生活への援助(基本的な生活習慣としつけ) ・睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱 (3) 小児期の経験と活動を豊かにする援助 ① 学習、支援システム、社会資源 (4) 子どもと遊び			講義 VTR GW
テキスト	系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 根拠と事故防止からみた小児看護技術 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科 目	小児看護学方法論 I (健康を障害された小児)	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	田中 三千子 新谷 幸恵	時間数	30
ねらい	小児期の主な健康障害と健康問題が小児や家族に及ぼす影響を理解し、小児看護に必要な基本的姿勢や方法・技術を学ぶ。 小児の急性期症状を呈する代表的疾患と看護を学ぶ。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの病気の理解の仕方や子どもの成長発達や家族に病気が及ぼす影響を理解し、影響を最小限にするための看護について理解する。 2. 健康問題を持つ子どもの生活・治療環境(入院、通院、在宅など)における援助方法と継続的なケアシステム・ネットワークの重要性と看護の役割について理解する。 3. 健康問題の経過に伴う看護の特徴と発達段階を踏まえたセルフケア能力を高める看護援助方法について理解する。 4. 小児看護技術の特徴と特殊な状態にある子どもと家族に必要な看護方法について理解する。 				
単 位	時 間	内 容			授 業 方 法
1	30 (4)	I 健康障害を持つ小児・家族への看護 1. 健康問題や入院が小児や家族に及ぼす影響と看護 1) 病気に対する小児の理解 2) 病気が小児の生活・成長発達に及ぼす影響と支援 3) 小児の健康障害に伴う家族のストレスと支援 4) 小児期に起こりやすい疾患の特徴と症状 2. 入院中の小児と家族の看護 (6) 3. 外来における小児と家族への看護 症状看護、継続看護 安全管理、事故防止と健康教育 事故・外傷と看護(救命救急の技術は演習で) 予防接種と看護 予防接種法と接種計画 (4) 4. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 1) インフォームドコンセント/アセント 2) 検査・処置が子どもに及ぼす影響と支援 3) プレパレーション			講義 GW 演習
	(4)	II 小児の看護に必要な基本的看護技術 ① 1. 援助関係を形成する技術 2. 問診 3. 身体計測 4. バイタルサイン測定 5. 安全・安楽を確保する技術;体位、遊びの活用、行動制限・抑制			
	(12)	III 症状別アセスメントと看護 不機嫌・啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、発熱、 悪心・嘔吐、下痢・便秘、脱水、浮腫、出血、貧血、 痙攣、意識障害、発疹、黄疸			
テキスト	系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 根拠と事故防止からみた小児看護技術 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科 目	小児看護学方法論Ⅱ 〔急性期・慢性期・終末期・ 手術を受ける小児・ 障害のある小児への看護〕	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	新谷 幸恵 仲田 美加 田畑 真弓	時間数	30
ねらい	各経過別看護および手術を受ける小児、障害のある小児と家族への支援の方法を学ぶ。				
目標	1. 急性期にある子どもと家族への看護を理解する。 2. 慢性期にある子どもと家族への看護を理解する。 3. 終末期にある子どもと家族への看護を理解する。 4. 手術を受ける子どもと家族への看護を理解する。 5. 障害のある子どもと家族への看護を理解する。				
単 位		内 容			授業方法
1	仲田 (10)	I 健康障害を持つ子供・家族への看護 1. 急性期にある小児と家族への看護 1) 急性期にある小児と家族の特徴 2) 急性気管支炎・肺炎の小児と家族への看護 3) ファロー四徴症の小児と家族への看護 4) 急性腎炎の小児と家族への看護 5) 川崎病の小児と家族への看護 6) 気管支喘息の小児の看護 7) 感染性疾患をもった小児の看護 (麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、髄膜炎、百日咳)			講義 VTR GW
	新谷 (4)	2. 慢性期にある小児と家族への看護 1) 慢性期にある小児と家族の特徴 2) 慢性期にある小児と家族のエンパワメントを支援する看護 3) ネフローゼ症候群の小児への看護 4) I型糖尿病の小児と家族への看護			
	新谷 (4)	3. 終末期にある小児と家族への援助 1) 小児の死の概念発達 2) 終末期にある小児の家族への援助 3) 急性リンパ性白血病の小児と家族への看護			
	新谷 (4)	4. 手術を受ける小児と家族への看護 1) 手術を受ける小児の理解 2) 腸重積患児と家族への看護 3) 幽門狭窄症患児の看護 4) 口唇口蓋裂患児の看護 5) 鎖肛患児の看護 6) 先天性股関節脱臼の小児の看護			
	新谷 (2) 田畑 (2)	5. 障害のある子どもと家族の看護 脳性麻痺の小児の看護			
テキスト	系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院) 根拠と事故防止からみた小児看護技術 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	小児看護学演習		展開時期	2年次後期	単位数	1
			担当教員	笠田 由美子	時間数	15
ねらい	演習を通して健康障害を持つ小児を全人的に理解し、看護援助が実践できる技術を修得する。					
目標	1. 小児期にある対象への看護過程を理解する。 2. 小児看護に必要な看護技術を修得する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	15	I 看護過程の展開 II 小児の看護に必要な基本的看護技術 ② 1. 与薬の技術;経口薬、座薬、注射、輸液管理 2. 症状・生体機能の管理技術;検体採取 (採尿・採便・採血・骨髄穿刺・腰椎穿刺) 3. 呼吸・循環を整える技術;酸素療法、吸引、吸入 4. 救命救急の技術 III プレパレーション 1. ロールプレイ				講義 GW 演習
テキスト	系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院) 根拠と事故防止からみた小児看護技術 (医学書院)					
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢					

科目	母性看護学概論		展開時期	2年次前期	単位数	1
			担当教員	吉本 美恵	時間数	15
ねらい	母性の特性を理解し、母子およびその家族の健康の維持増進、疾病の予防のための看護を学ぶ					
目標	1. 母性の概念および母性の特性を理解する。 2. 母性を取り巻く社会の現状と課題を理解し、母子保健システムにおける母性看護の意義と役割を学ぶ。 3. 女性のライフサイクル各期の特徴および性と生殖に関する健康と看護について学ぶ。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	15 (3)	I 母性看護の概念 1. 母性看護の目的・対象・役割 2. 母性の特性 3. 母子関係の形成と家族発達 II セクシャリティ リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション (4) III 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1. 母性看護の変遷 2. 母子保健の動向 3. 母性看護に関する組織と法律 4. 母子保健施策 5. 母性看護の対象を取り巻く社会の現状と課題 (4) IV 女性のライフサイクル各期における看護 1. ライフサイクル期における女性の健康と看護 2. 思春期の健康と看護 3. 成熟期の健康と看護 4. 更年期の健康と看護 (3) V リプロダクティブヘルスケア 1. リプロダクティブヘルス/ライツの概念 2. 家族計画 3. 性感染症と予防 4. HIVに感染した女性への看護 5. 人工妊娠中絶と看護 6. 喫煙女性の健康と看護 7. 性暴力を受けた女性への看護				講義
テキスト	系統看護学講座 母性看護学1 母性看護学概論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)					
評価方法	出席・試験・授業への参加姿勢					

科目	母性看護学方法論 I (周産期看護)		展開時期	2年次前期	単位数	1
			担当教員	吉本 美恵	時間数	30
ねらい	妊娠・分娩・産褥各期および新生児期における母子の特徴を理解し、生理的変化が順調に経過するための看護を学ぶ。					
目標	1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 母子およびその家族に対する健康の維持増進に向けた援助内容と方法を学ぶ。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	30 (10)	I 妊娠期の看護 1. 妊娠期の身体的・心理・社会的特性 2. 妊婦の健康状態とアセスメント 3. 胎児の健康状態とアセスメント 4. 妊娠期のマイナートラブル 5. 妊婦の日常生活と看護ケア 6. 親になるための準備教育				講義 レポート
	(8)	II 分娩期の看護 1. 分娩の概要 2. 産婦・胎児の健康状態とアセスメント 3. 分娩各期の経過とアセスメント				
	(7)	III 産褥期の看護 1. 産褥の経過とアセスメント 2. 褥婦の看護 1) 生理的復古現象促進への看護 2) 褥婦のセルフケアへの援助 3) 母親役割獲得過程への支援 4) 育児技術習得への支援 5) 母乳育児へ向けての支援 6) 退院に向けての支援				
	(4)	IV 新生児期における看護 1. 新生児の生理 2. 出生直後の新生児の看護 3. 24時間以降の新生児の看護				
テキスト	系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院) 根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院)					
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢					

科目	母性看護学方法論Ⅱ (周産期ハイリスク看護)		展開時期	3年次前期	単位数	1
			担当教員	吉本 美恵 斎藤 未来	時間数	30
ねらい	周産期に起こりやすい健康障害を理解し、健全な母性の遂行のための看護を学ぶ。					
目標	1. 妊娠・分娩・産褥および新生児各期に起こりやすい健康障害を理解する。 2. 健康障害をもった母子の看護を行うための基礎的知識を学ぶ。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	吉本 (10)	I 母性看護と生命倫理 1. 遺伝相談、出生前診断、着床前診断 2. 胎児治療 3. 出生前診断を受ける人の看護 4. 不妊治療と看護				講義
		II 妊娠の異常と看護 1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠悪阻 3. 流産 4. 早産 5. 感染症 6. 前置胎盤 7. 常位胎盤早期剥離 8. 妊娠高血圧症候群 9. 血液型不適合妊娠 10. 多胎妊娠 11. 糖代謝異常				
	吉本 (7)	III 分娩の異常と看護 1. 産道・娩出力の異常 2. 前期破水 3. 産科出血 4. 産科処置・産科手術				
	吉本 (8)	IV 産褥の異常と看護 1. 子宮復古不全 2. 産褥期の感染 3. 産褥血栓症 4. 産褥期の精神障害 5. 帝王切開を受ける人の看護 6. 死産・障害児をもつ母親の看護				
	斎藤 (4)	V 新生児の異常と看護 1. 胎児機能不全 2. 新生児に起こりやすい異常 低体温 低血糖 病的黄疸 3. 低出生体重児 4. NICUにおける看護の実際				
テキスト	系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院) 根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院)					
評価方法	出席・試験・課題レポート・授業への参加姿勢					

科目	母性看護学演習		展開時期	2年次後期	単位数	1
			担当教員	吉本 美恵	時間数	15
ねらい	周産期の母性に必要な看護技術を習得し、対象に応じた看護を展開する方法を学ぶ。					
目標	1. 母性看護に必要な看護技術を修得する。 2. 母性の事例をとおして対象に応じた看護を展開する方法を修得する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	15 (8)	I 看護過程の展開 1. 事例:正常に経過する妊婦・産婦・褥婦の看護				演習
	(7)	II 母性看護に必要な看護技術 1. 妊婦ケア、子宮底測定・腹囲測定□ 2. 妊婦体験・レオポルド触診法 3. 褥婦ケア、子宮復古、乳房の観察 4. 新生児の計測及び観察 5. 新生児の沐浴 6. 新生児の看護(抱き方、衣服の着脱、おむつ交換) 7. 調乳方法(調乳方法、哺乳瓶の取り扱い)				
テキスト	系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院) 根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院)					
評価方法	出席・レポート・授業への参加姿勢					

科目	精神看護学概論	展開時期	1年次後期	単位数	1
		担当教員	山本 隆信	時間数	15
ねらい	精神看護学の位置づけと目的、および精神看護の対象を学ぶ。				
目標	1. 精神看護の目的・対象を理解する。 2. 精神看護の対象を取りまく現代社会の特徴を理解し、必要な援助について理解する。 3. 精神医療の変遷と社会における精神障害者の処遇について理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15 (3)	I 精神障害の考え方 1. 「心のケア」と現代社会 2. 精神看護学とその課題 3. 社会の動向と精神科医療の現状 4. 精神障害とはどういうものか			講義
	(4)	II 精神の健康と障害 1. 精神の健康と障害の3つの側面 2. 精神健康の基準 3. 疾患モデルと障害モデル 4. ICFの考え方			
	(8)	III 社会のなかの精神障害 1. 精神障害と治療の歴史 2. 日本における精神医学・精神医療の流れ 3. 精神障害と社会学 4. 精神障害と法制度			
テキスト	系統看護学講座 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	精神看護学方法論Ⅰ	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	吉次 徹 平尾 光史	時間数	30
ねらい	精神に障害をもつ対象の疾患、症状、問題の特徴、および治療法を理解し、看護に必要な援助方法を学ぶ。				
目標	1. 発達段階における心の発達と健康問題について理解する。 2. 主な精神疾患・症状が日常生活へ及ぼす影響と基本的な看護について理解する。 3. 治療の有害反応が日常生活へ及ぼす影響と基本的な看護について理解する。 4. 精神に障害をもつ対象の事例を通して看護過程の展開を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30 (7)	Ⅰ 人間の心のはたらき 1. 自我の発達段階 2. ライフサイクルとメンタルヘルス 3. 人格の発達と情緒体験 4. 危機介入とストレス理論 (6) Ⅱ 身体をケアする 1. 精神科におけるフィジカルアセスメント 2. 身体にあらわれる心の痛み 3. 抗精神病薬の有害反応と看護 4. 電気けいれん療法と看護 5. 日常から気をつけておきたい身体合併症 (17) Ⅲ 精神科における看護 1. 主な精神疾患の治療と看護 1) 統合失調症 2) 気分障害(躁うつ病) 3) パーソナリティ障害 4) 神経症性障害 5) 摂食障害など 6) 器質性精神障害 7) 精神作用物質関連障害など 2. 臨床検査と看護			講義
テキスト	系統看護学講座 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	精神看護学方法論Ⅱ	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	渡辺 忍 若林 一樹 藤本 由香	時間数	30
ねらい	精神に障害をもつ対象をとりまく環境と精神保健・福祉・医療における看護師の機能と役割を学ぶ。				
目標	1. 現代社会における家族のあり方や精神障害者を身内にもつ家族に必要な支援を行うことの重要性を理解する。 2. 精神科病棟の特徴と治療的環境について理解し、対象の安全を守るための留意点を理解する 3. リハビリテーションと回復を支えるさまざまな方法について理解する。 4. リエゾン精神看護について理解する。 5. 地域で精神障害者を支援するための方法と保健・福祉・医療における看護師の役割を学ぶ。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	(6)	I ケアの人間関係 1. ケア的前提・原則・方法 2. 治療的関わり 3. チームのダイナミクス II 関係のなかの個人 1. 全体としての家族 2. 人間と集団 III 入院治療と看護の展開 (6) 1. 精神科病棟における治療的環境 行動制限、処遇などにおける看護 2. 緊急事態への対処 (4) 自殺・離院・窒息などへの対応 3. 安全を守ること、人権を守ること 精神科看護師が会う倫理問題 IV 精神科における看護の実際 (4) 1. 在宅療養にむけた看護の実際 症状マネジメントの実際 服薬管理・心理教育指導 2. 精神療法・リハビリテーション療法と看護 V 地域における精神看護 (6) 1. 地域で生活するための原則 2. 生活を支える制度 3. 地域で精神障害者を支援するための方法 4. 地域での看護の実際 VI 精神科以外での精神看護 (4) 1. 看護カウンセリング 2. リエゾン精神看護			講義
テキスト	系統看護学講座 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	精神看護学演習	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	川神 美智代	時間数	15
ねらい	精神に障害をもつ対象と治療的人間関係を構築し、看護を実践するための方法を学ぶ。				
目標	1. 治療的対人関係の意味と、看護師が果たす役割を理解する。 2. 精神科病棟における患者－看護師関係で生じる現象について事例を通して理解する。 3. 治療的コミュニケーション技法を活用できる。 4. 事例を用いて精神に障害をもつ対象への看護過程を展開できる。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15 (8)	I 看護過程展開の技術 1. 事例統合失調症(幻覚・妄想状態の患者) 1) 情報の整理 (1) 発達段階 (2) 健康障害の種類 (3) 健康障害の段階(主な治療内容) (4) 生活過程の特徴(社会関係の変化) 2) 対象の全体像の把握 3) 看護の方向性の把握 4) 問題の明確化 5) 目標の設定 6) 看護計画の立案 II 援助のための対人関係技術 (3) 1. 患者－看護師関係の成立・発展過程 (4) 2. 治療的コミュニケーション技術 1) 再構成におけるコミュニケーション技法の分析 2) 治療的コミュニケーション技法を用いたロールプレイング 3) SSTカンファレンス			演習 グループワーク ロールプレイング
テキスト	系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)				
評価方法	出席・レポート・授業への参加姿勢				

科 目	成人看護学実習 I (看護過程)	展開時期	2年次前期	単位数	2
		担当教員	東 真由美	時間数	90
ねらい	対象を理解し、健康上の課題を解決するための看護展開の基礎を学ぶ。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者の情報を収集できる。 2. 看護上の問題とその原因・誘因を捉え、患者の全体像をつかむことができる。 3. 看護計画を立案できる。 4. 看護計画に基づいて、日常生活援助が実施できる。 5. 患者の反応をもとに目標達成度を判断し、看護上の問題の評価ができる。 6. 看護師に必要な基本的態度を養う。 7. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。 8. 看護についての自己の考えを表現できる。 				
単位	時間	内 容			授業方法
2	90	<p>I 受け持ち患者の情報を収集できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初期情報をもとに注目すべき情報・領域を選択できる。 2. 患者・家族を尊重し、誠実な度での情報収集ができる。 3. 患者の負担を最小限にした情報収集ができる。 4. 意図的な情報収集ができる。 5. コミュニケーション技術を活用した情報収集ができる。 <p>II 看護上の問題とその原因・誘因を捉え、患者の全体像をつかむことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報を分析・統合し、問題を導きだす過程を表現できる。 2. 関連因子・危険因子となりうる情報を挙げ、その解釈と看護上の問への関連性を記述できる。 <p>III 看護計画を立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に期待する結果を想定し、目標の設定ができる。 2. 看護介入の方法を決定し、表現できる。 3. 看護計画の立案ができ <p>IV 看護計画に基づいて、日常生活援助が実施できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画に基づきながら、患者の状況に応じた援助が実施できる。 2. 実施後の患者の観察、片づけ、報告ができる。 3. 患者の状況に応じたコミュニケーションを考え、実施・考察できる。 4. 患者の状況に応じた環境調整への行動ができる。 <p>V 患者の反応をもとに目標達成度を判断し、看護上の問題の評価ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経過記録が記載できる。 <p>VI 看護師に必要な基本的態度を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相手を尊重した態度、言葉遣いができる。 <p>VII 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者との連絡調整の実際とその意義について述べられる。 <p>VIII 看護についての自己の考えを表現できる。</p> <p>* 具体的には実習要項参照</p>			実習
テキスト					
評価方法	成人看護学実習 I 評価表に基づく評価				

科 目	成人看護学実習Ⅱ (回復・慢性期)		展開時期	2年次後期	単位数	2
			担当教員	東 真由美	時間数	90
ねらい	回復および慢性期にある成人期の対象を統合的に理解し、その特徴を踏まえ看護が実践できる基礎的能力を養う。					
目標	1. 回復・慢性期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から理解し、健康上の課題が判断できる。 2. 回復・慢性期にある対象の自立・セルフケア行動を高める看護を実践する。 3. 回復・慢性期にある対象の多様な価値観を認め、倫理的判断に基づく態度を身に付ける。 4. 継続看護の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解する。 5. 回復・慢性期実習をとおして看護観を深める。					
単位	時間	内 容				授業方法
2	90	I 回復期・慢性期にある対象を身体・心理・社会的側面から理解し、健康 1. 回復・慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を理解する。 2. 対象の身体・心理・社会的側面を統合し、看護上の課題が挙げられ II 回復・慢性期にある対象の自立・セルフケア行動を高める看護を実践 1. 回復・慢性期にある対象の回復段階に応じた計画を立案できる。 2. 対象のセルフケア行動を高め、対象のQOLを維持・向上するための援助を実施する。 3. 二次障害・合併症を予防するための援助を実施する。 4. 社会復帰、退院に向けて対象のニーズを把握し、個別指導を実施する。 5. 実践した看護を評価し、必要にあわせて修正する。 III 回復・慢性期にある対象の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づく態度を身に付ける。 IV 継続看護の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームにおける看護師役割を理解する。 1. 社会資源・他職種との連携の理解 2. 継続看護の果たす役割 V 回復・慢性期実習をとおして、看護観を深める。 *具体的には実習要項参照				実習
テキスト						
評価方法	成人看護学実習Ⅱ 評価表に基づく評価					

科 目	成人看護学実習Ⅲ (急性期)	展開時期	3年次前期	単位数	2
		担当教員	両國 俊樹	時間数	90
ねらい	急性期(周手術期、慢性疾患の急性増悪を含む)にある対象の健康上の課題を統合的に理解し、生命維持、症状悪化防止、回復促進を促す基礎的能力を養う。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する。 2. 急性期にある対象の生命の維持、症状悪化防止、回復促進に向けた看護を実践する。 3. 手術療法を必要とする対象への看護を理解する。 4. 倫理的判断に基づいた態度で看護を実践する。 5. 健康回復に向けて看護の継続性を認識し、保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 6. 急性期看護の実習を通して看護観を深める。 				
単位		内 容			授業方法
2	90	<p>I 急性期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的・精神的・社会的側面の理解 2. 全体像の把握 3. 健康上の課題の判断 <p>II 急性期にある対象の生命の維持、症状悪化防止、回復促進に向けた実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護上の問題を改善するための計画立案 2. 計画に基づいた援助の実施 3. 合併症を予測し、予防のための援助を実施 4. 対象のニーズを把握し、退院後の生活に向けての援助を実施 5. 実践した看護の評価 <p>III 手術療法を必要とする対象への看護を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 術前・術中・術直後の看護を理解する。 <p>IV 倫理的判断に基づいた態度で看護を実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的判断に基づいた態度 2. 自己のコミュニケーションを分析 <p>V 健康回復に向けて看護の継続性を認識し、保健・医療・福祉チームとして看護師の役割を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある対象を支援するチームメンバーの役割と連携方法 2. 急性期医療チームの中での看護師の役割 <p>VI 急性期看護の実習をとおして看護観を深める。</p> <p>*具体的には実習要項参照</p>			実習
テキスト					
評価方法	成人看護学実習Ⅲ 評価表に基づく評価				

科 目	老年看護学実習 I (健康障害のある高齢者の看護)		展開時期	2年次後期	単位数	2
			担当教員	堀 由美子	時間数	90
ねらい	健康障害を持ち治療過程にある高齢者を理解し、対象特性に応じた看護の展開を学ぶ。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ高齢者の身体的・精神的・社会的側面を把握し、生活者として高齢者を統合的に理解する。 2. 高齢者の個別性を捉えた看護過程を展開する。 3. 高齢者・家族とのコミュニケーションを図り、良好な人間関係を築く。 4. 健康維持増進をめざした継続看護の必要性を認識し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する。 5. 老年看護学実習をとおして老年観、看護観を深める。 					
単位	時間	内 容				授業方法
2	90	<p>I 健康障害を持つ高齢者の身体的・精神的・社会的側面を把握し、生活高齢者を統合的に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化と健康障害に伴う身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面 2. 受け持ち患者を生活統合体として全体像に記述 <p>II 高齢者の個別性を捉えた看護過程の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者の健康課題をアセスメント 2. 健康課題を改善するための看護計画を、個別性を踏まえて立案 3. 健康障害に応じた日常生活の援助を実施する 4. 健康障害に応じた改善、調整、悪化防止、合併症予防のための援助 5. 実践した看護を評価し、必要にあわせて修正 <p>III 高齢者・家族とのコミュニケーションを図り、良好な人間関係を築く</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴を考えたコミュニケーション 2. 高齢者とのコミュニケーションの意義 3. その人らしい生き方や、生き甲斐 4. 看護倫理に基づいた態度 <p>IV 健康維持増進を目指した継続看護の必要性を認識し、保健・医療・福祉一員としての看護師の役割を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の生活と退院後の生活における課題 2. 受け持ち患者が利用できる社会資源 3. 受け持ち患者に提供されているチームメンバーの役割と職種間の連携 4. 他職種と協働するチームメンバーとしての看護の役割 <p>V 老年看護学実習をとおしての老年観、看護観を深める。</p> <p>* 具体的には実習要項参照</p>				実習
テキスト						
評価方法	老年看護学実習 I 評価表に基づく評価					

科 目	老年看護学実習Ⅱ (要介護高齢者の看護)		展開時期	3年次前期	単位数	2
	担当教員	河村 晶子	時間数	90		
ねらい	老人保健施設で生活する要介護高齢者を統合的に理解し、生活の質を考慮した健康援助を学ぶ。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 要介護状態にある高齢者の生活機能をアセスメントし、生活者としての高齢者を統合的に理解する。 2. 要介護高齢者の生活機能に応じた看護を計画・実践・評価できる基礎的能力を養う。 3. 施設で生活する高齢者の生きてきた歴史と多様な価値観を尊重し倫理的判断に基づいた態度を身につける。 4. 高齢者ケアの場における保健・医療・福祉チームとの連携や協働の必要性を理解する。 5. 老年看護学実習をとおして、今後の老年看護の課題を考え、自己の老年看護観を深める。 					
単位	時間	内 容			授業方法	
2	90	<p>I 要介護状態にある高齢者の生活機能をアセスメントし、生活者としての高齢者を統合的に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 要介護高齢者の全体像を生活機能の側面から捉え、ICFモデルの枠組みに記述する。 2. 受け持ち利用者の生活機能・環境・個人因子、健康状態の相互関係と提供されているサービスについて理解する。 <p>II 要介護高齢者の生活機能に応じた看護を計画・実践・評価できる基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち利用者の生活機能の維持・向上に向けた看護計画の立案 2. 受け持ち利用者の生活機能の維持・向上に向けた援助を実施 3. 受け持ち利用者へ行った援助の評価・改善点 <p>III 施設で生活する高齢者の生きてきた歴史と多様な価値観を尊重し倫理的判断に基づいた態度を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴を考えたコミュニケーション 2. 高齢者とのコミュニケーションの意義 3. その人らしい生き方や、生き甲斐 4. 倫理的判断に基づいた態度 <p>IV 高齢者ケアの場における保健・医療・福祉チームとの連携や協働の必要性を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人保健施設の概要 2. 老人保健福祉施設に従事するメンバーの各役割と連携方法 3. 老人保健施設と他施設との連携方法や目的 4. 受け持ち利用者の継続ケア・継続看護について 5. 他職種と協働するチームメンバーとしての看護の役割 <p>V 老年看護学実習をとおして、今後の老年看護の課題を考え、自己の老年看護観を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の老年観・看護観 2. 老年看護の課題・自分の課題 <p>*具体的には実習要項参照</p>			実習	
テキスト						
評価方法	老年看護学実習Ⅱ 評価表に基づく評価					

科 目	小児看護学実習	展開時期	3年次前期	単位数	2
		担当教員	田中 三千子	時間数	90
ねらい	小児期にある対象を理解し、成長・発達および健康レベルに応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を修得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期にある対象を成長・発達し続ける存在として、身体的・精神的・社会的側面から理解し、成長・発達を促し健康課題の解決につながる看護を学ぶ。 2. 小児の成長・発達および健康状態に応じた基礎的看護技術を学ぶ。 3. 小児の生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を身につける。 4. 小児及び家族との人間関係を築き、発展させるための働きかけを学ぶ。 5. 保健・医療・福祉・教育チームの一員としての看護師の役割を理解し、他職種と協働できる能力を養う。 6. 小児看護学実習を通して小児観、看護観を深める。 				
単位	時間	内 容			授業方法
2	90	<p>I 健康な小児の成長・発達の理解し、発達に応じた日常生活および健康の保持・増進への援助を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な小児の成長・発達を理解し、小児の特徴を捉える。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の身体的・精神的社会的成長・発達の特徴を理解する <ol style="list-style-type: none"> (1) 成長・発達の状況 (2) 各発達段階における生活行動の状況の理解 2. 健康な小児の生活を理解し、発達に応じた援助を理解する <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の身体的・精神的社会的成長・発達の特徴を理解する <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全を守り成長・発達を促すための環境 (2) 日常生活習慣獲得の援助 (3) 精神運動機能の発達に向けての援助 			実習
<p>II 健康を障害された小児および家族を理解し、小児の成長発達段階、健康状態に応じて、成長発達を促し、健康上の課題解決に向けた看護を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階に伴う変化と日常生活への影響を理解する 2. 発達段階に伴う健康上の問題を理解する 3. 小児期にある対象の看護上の問題を理解する <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院による環境の変化・生活習慣の変化が成長・発達に及ぼす影響 2) 疾患による症状・機能障害による日常生活上の影響 3) 症状・検査結果や治療を疾患と病態に関連 4) 小児の成長・発達段階および健康状態に応じた基礎的看護技術を学ぶ <p>III 小児および家族との人間関係成立へ向けての働きかけをする</p> <p>IV 子どもの生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を身につける</p> <p>V 継続看護の視点から、保健医療チームの一員として看護の役割が認識出来る</p> <p>VI 保健・医療・福祉・教育チームの一員としての看護師の役割を理解する</p> <p>VII 子どもへの愛情、小児観、看護観を育む</p> <p>* 具体的には実習要項参照</p>					
テキスト					
評価方法	小児看護学実習 評価表に基づく評価				

科 目	母性看護学実習	展開時期	3年次前期	単位数	2
		担当教員	吉本 美恵	時間数	90
ねらい	妊娠・分娩・産褥各期および新生児期にある対象の特徴を理解し、対象の健康の保持増進に必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥および新生児期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 対象に応じた健康上の課題解決に向けた看護を学ぶ。 3. 母と児(胎児)の生命の尊厳と個々の人格と価値観を尊重する態度を身につける。 4. 母子の健康保持増進のために保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、他職種と協働できる能力を身につける。 5. 母性看護学実習をとおして、自己の母性観・父性観・看護観を深める。 				
単位	時間	内 容			授業方法
2	90	<p>I 妊娠経過に伴う母体の変化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠経過に伴う身体的変化および心理的・社会的特長 <p>II 妊娠各期に応じた健康診査と保健指導</p> <p>III 分娩各期の経過の観察と日常生活の援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩 I～IV期の援助 2. 日常生活援助 <p>IV 産褥の経過に応じた援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥日数に応じた身体的変化 2. 褥婦の心理的・社会的変化 3. 復古促進・乳汁分泌機能促進への援助 4. 育児行動確立への援助 <p>V 新生児の特徴の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全を配慮した新生児に必要な援助 2. 新生児の保育環境 <p>VI 母および児(胎児)の生命の尊厳を尊重した援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児(胎児)の生命の誕生と生命の尊厳 2. プライバシーの保護をふまえた援助 3. 母や家族の意思を尊重した援助 <p>VII 継続看護の必要性和社会資源の活用の理解</p> <p>VIII 保健・医療・福祉チームの一員としての他職種との協働</p> <p>IX 生命の神秘性や尊厳、および母性・父性について考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の大切さ、生命倫理 2. 母性とは、父性とは、家族の発達 <p>* 具体的には実習要項参照</p>			実習
テキスト					
評価方法	母性看護学実習 評価表に基づく評価				

科目	精神科看護学実習	展開時期	3年次後期	単位数	2
		担当教員		時間数	90
ねらい	精神に障害をもつ対象への理解を深め、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う				
目標	1. 精神に障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する。 2. 精神に障害をもつ対象に応じた看護を計画・実践・評価できる基礎的能力を養う。 3. 精神に障害をもつ対象の人格を尊重し、倫理的判断に基づいた行動がとれる。 4. 精神保健・福祉・医療における看護師と他職種の役割、連携について理解を深め、他職種と協働できる能力を養う。 5. 精神看護学実習を通して看護師にもとめられる資質と役割を探求し、看護観を深める。				
単位		内 容			授業方法
2	90	I 精神に障害をもつ対象を理解する。 1. 精神保健福祉法に基づく入院の理解□ 2. 対象にとって入院することの意味□ 3. 治療的環境が対象へ及ぼす影響 4. 入院に至る経緯□□ (生育歴、既往歴、人間関係、社会的役割、ストレスに対する脆弱性) 5. 発達課題の達成状況が対象へ及ぼす影響□ 6. 対象の精神状態のアセスメント 7. 精神症状が日常生活に与える影響 8. 治療が対象に及ぼす影響 9. 対象のもつ力 10. 対象の言動の意味 11. 地域での生活の実際 II 精神に障害をもつ対象に応じた看護の実践 1. 症状に応じた看護□ 2. 精神に障害をもつ対象の回復段階に応じた看護計画□ 3. 対象との患者－看護師関係の成立・発展過程 4. 受け持ち患者との関係の構築□□ 5. 治療的コミュニケーション技法□ 6. 関わりの場面の再構成 III 精神に障害をもつ対象への倫理的判断に基づいた行動 1. 精神に障害をもつ対象の人格を尊重した関わり 2. 自己の傾向や自己の関わりが対象へ及ぼす影響 3. 倫理的判断に基づいた行動 IV 他職種と協働できる能力 1. 社会復帰に向けた支援と看護師の役割 2. 専門職による援助の実際と協働 V 実習をとおして自己の看護観を深める *具体的には実習要項参照			実習
テキスト					
評価方法	精神看護学実習 評価表に基づく評価				

科 目	在宅看護論概論	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	南田 直子	時間数	15
ねらい	傷病・障害をもちながら地域で療養・生活する人とその家族の特性を知り、歴史の中で育まれてきた在宅看護の現状と展望を踏まえて、看護職として果たすべき役割を理解する。				
目標	1. 在宅看護の目的について理解する。 2. 日本の在宅看護の変遷とその社会背景について理解する。 3. 在宅ケアにおける看護職の役割を理解する。 4. 在宅看護の基本理念について理解する。 5. 在宅療養者と家族の特性を知り、支援の必要性を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15 (5)	I 在宅看護の概念 1. 地域療養を支える看護 2. 日本の在宅看護の歴史と現状 3. 在宅ケアと在宅看護 4. 在宅看護の理論と基本理念			講義 VTR GW
	(10)	II 在宅療養者と家族の支援 1.在宅療養を必要とする人たち 2.在宅療養の成立条件 3.在宅療養者への看護活動 4.在宅看護と家族 1)家族とは 2)家族と看護 5.家族の介護負担とその軽減 1)在宅療養生活と家族, 高齢者への家庭内虐待 2)介護負担に影響する要因 3)介護負担軽減に向けた家族の支援			
テキスト	在宅看護論 地域療養を支えるケア (メディカ出版) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)				
評価方法	出席・試験・授業への参加姿勢				

科 目	在宅看護論方法論Ⅰ (在宅ケアを支える看護)	展開時期	2年次前期	単位数	1
		担当教員	南田 直子 柴崎 恵子 末永 広美 秋重 郁子	時間数	30
ねらい	在宅ケアの特徴および在宅ケアにおける連携・マネジメントについて学ぶ。				
目標	1. 在宅看護を支える訪問看護について理解する。 2. 在宅ケアにおける関連職種との連携と方法を理解する。 3. 在宅ケアを支える制度と社会資源について理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	南田 (14)	Ⅰ 在宅ケアを支える看護 1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3. 訪問看護の実践 1) 訪問看護における看護過程の特徴 2) 訪問看護過程の実際 3) 家庭訪問・初回訪問 4. 訪問看護の記録 5. 在宅における感染症			講義 VTR GW
	柴崎 (8)	Ⅱ 在宅ケアの連携とマネジメント 1. 地域包括ケアシステムと在宅ケア 2. ケアマネジメントと看護 3. 関連職種との連携 4. 在宅ケアシステムの実際			
	末永 (6) 秋重 (2)	Ⅲ 在宅ケアを支える制度と社会資源 1. 社会資源の活用 2. 在宅ケアを支える医療保険制度 3. 高齢者を支える制度と社会資源 4. 障害者の在宅療法を支える制度と社会資源 5. 在宅難病療養者を支える制度と社会資源			
テキスト	在宅看護論 地域療養を支えるケア (メディカ出版) 実践できる在宅看護技術ガイド(学研)				
評価方法	出席・試験・授業への参加姿勢				

科 目	在宅看護論方法論Ⅱ (状態別在宅看護)	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	笠田由美子 堀 由美子 南田 直子 柴崎 恵子 末永 広美 岡藤 美智子 国舛 美裕紀 大橋 高弓	時間数	30
ねらい	在宅で見られることの多い特徴的な事例を用い、在宅での状態に応じた看護を修得する。				
目標	1.在宅における医療管理を必要とする人とその看護を理解する。 2.在宅看護における特徴的な事例を通し、アセスメント能力・判断力を養いながら、在宅看護過程の展開方法を理解する。 3.さまざまな事例から状態に応じた看護を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1		I 事例にみる在宅看護 堀 (4) 1. 在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある高齢者 南田 (4) 2. 呼吸不全でHOTを受けている療養者と家族 笠田 (4) 3. 24時間ケアを要する難病療養者(ALS)と家族 国舛 (2) 4. 呼吸器疾患や難病の療養者への訪問看護の実際 笠田 (6) 5. 終末期の療養者 1)疼痛コントロール, 麻薬使用の管理 2)在宅中心静脈栄養法 (HPN)の管理 岡藤 (4) 6. ターミナルケアを含む訪問看護の実際 1)ターミナルケアの実際 (1)死の看取り、家族への支援 (2) 7. 頸髄損傷の療養者と家族 (2) 8. 精神障害者の訪問看護の実際 (2) 9. 地域で療養する子ども			講義 GW
テキスト	在宅看護論 地域療養を支えるケア (メディカ出版) 実践できる在宅看護技術ガイド(学研)				
評価方法	出席・試験・提出物・授業への参加姿勢				

科目	在宅看護論演習	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	南田 直子 蔵本 美枝子	時間数	30
ねらい	在宅看護論で学んだ知識を生かし、地域に暮らす在宅療養者とその家族に対する具体的な看護技術・態度を修得する。				
目標	1. 訪問看護の特性が理解できる。 2. 訪問時におけるマナーを理解する。 3. 訪問看護における日常生活援助や医療処置について理解できる。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	30 南田 (28) 蔵本 (2)	I. 訪問看護に必要な基本的態度、マナーの取得 1. 初回訪問の演習 1) 在宅での看護過程展開の視点 (1) 在宅療養開始時のアセスメントおよび家族への援助 2) 初回訪問のロールプレイ (1) 在宅療養者、介護者および家族、訪問看護師を体験し、 (2) 接遇を学ぶ II. 在宅における療養環境 1. 住環境のアセスメント 1) 住宅改修の視点と福祉用具 III. 在宅における医療管理と看護技術 1. 栄養に関する援助技術 1) 経管栄養(胃瘻) 2) 在宅中心静脈栄養法(HPN) 2. 清潔における援助技術 1) 清潔のアセスメントと援助に関する在宅看護技術 3. 呼吸に関する援助技術 1) 在宅酸素療法・人工呼吸器の実際 □ (NPPV・HOT・HMV) 4. 排泄に関する援助技術 1) 腹膜透析(CAPD)における看護 5. 訪問のロールプレイ 1) 実際に訪問看護師として1時間訪問体験を行い、看護師の役割り 情報収集、アセスメントの視点を学ぶ			講義 GW 演習
テキスト	在宅看護論 地域療養を支えるケア (メディカ出版) 実践できる在宅看護技術ガイド(学研)				
評価方法	出席・レポート・授業への参加姿勢				

科 目	看護の統合と実践 I (看護管理)	展開時期	3年次後期	単位数	1
		担当教員	野崎 美紀 松本 はる美	時間数	15
ねらい	看護管理の基本的知識を学び、他職種と協働する中で、看護師としてのメンバーシップ・マネジメントに必要な知識と技術を学ぶ。				
目標	1. 看護管理における看護ケアのマネジメントを理解する。 2. 看護を取り巻く諸制度を理解する。 3. マネジメントに必要な知識や技術を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	野崎 (12) 松本 (4)	I 看護とマネジメント 1. 看護管理・マネジメントとは 2. ケアのマネジメント 1) ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 看護体制 3) 看護基準と看護手順 4) 患者の権利尊重 5) 看護職の協働: 看護ケア提供システム マネジメントの変遷 コミュニケーション 6) 他職種との協働 7) 情報: 記録・保管・蓄積・共有・保護 3. 看護サービスのマネジメント 4. 看護を取り巻く諸制度の理解 5. マネジメントに必要な知識と技術 1) 組織とマネジメント 2) リーダーシップとマネジメント 3) 組織と個人・組織調整			講義 演習
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践1 看護管理 (医学書院)				
評価方法	出席・レポート・試験・授業への参加姿勢				

科 目	看護の統合と実践Ⅱ－1 (看護研究の基礎)	展開時期	2年次後期	単位数	1
		担当教員	田中 マキ子	時間数	15
ねらい	看護研究の意義と文献検索および活用方法を理解し、看護研究の基礎を学ぶ。				
目標	1. 事例における研究とケーススタディの意義を理解する。 2. 文献検索および文献検討の方法を理解する。 3. 研究の方法の過程の概要を理解する。 4. クリティークの目的・基準を理解する。 5. 看護研究において擁護されるべき権利について理解する。 6. 発表および参加の仕方を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	15 (2)	I 看護における研究の意義 1. 研究の定義と種類 2. 研究の必要性 3. 看護研究におけるケーススタディ II 文献の活用 1. 文献活用の必要性 2. 文献検索の仕方 3. 文献検討と整理の仕方 (6) III 研究の方法 1. 研究課題の発見 2. 概念枠組みの決定 3. 変数と仮説の設定 4. 研究デザインの選定 5. データの収集方法 6. データの分析方法 7. 研究計画書の作成 8. 論文のまとめ方 (4) IV 事例研究のクリティーク 1. クリティークの目的 2. 批判的読み方とは 3. 量的研究と質的研究のクリティークの基準 4. クリティーク能力を伸ばすための方策 (2) V 研究における倫理 1. 倫理原則 2. 看護研究におけるガイドライン、看護者の倫理綱領 VI 発表の仕方と参加の仕方			講義 演習
テキスト	わかりやすいケーススタディの進め方 —研究テーマの設定からレポート作成のポイントまで (照林社)				
評価方法	出席・レポート・試験・授業への参加姿勢				

科 目	看護の統合と実践 Ⅱ-2 (事例研究)		展開時期	3年次前期	単位数	1
			担当教員	笠田 由美子	時間数	30
ねらい	看護研究の基礎で学習した学びをもとに看護研究を行い、日々の看護実践を科学的に捉える力や、問題意識を持ち看護を探究する態度を養う。					
目標	1. 研究計画書および論文作成を体験する。 2. 臨地実習での自己の看護実践を記述し、文献を用いた意味づけを体験する。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	30	I 看護研究Ⅰの講義を踏まえ、ケーススタディを行う 1. 各人が実習の中で課題を見出し取り組む 2. 指導担当教員:基本的にテーマによって決定 3. 研究テーマの設定 4. 文献検索 5. 研究の枠組みの決定 6. 研究計画書立案 7. 研究報告書の作成 8. 口頭発表				演習
テキスト	わかりやすいケーススタディの進め方 —研究テーマの設定からレポート作成のポイントまで (照林社)					
評価方法	研究のプロセス・態度・成果					

科 目	看護の統合と実践Ⅲ (医療安全・災害看護・国際看護)	展開時期	3年次前期	単位数	1
		担当教員	東 真由美 木原 雅子 古賀 聖典	時間数	30
ねらい	医療安全および医療事故防止対策を学び、医療安全に対する知識や態度を養う。 災害直後から支援できる災害看護の基礎的知識を学び、看護者の役割を学ぶ。 国際社会におけるさまざまな健康課題を理解し、国際的な看護活動について考えることができる。				
目標	1. 医療事故回避のための方法とルールを遵守する必要性を理解する。 2. 看護業務における医療事故の発生要因と防止対策の方法を理解する。 3. 対象の日常生活におけるリスクを回避するための方法を考え、実施することができる。 4. 災害時に看護者が果たす役割と災害各期における災害支援活動を理解する。 5. 国際看護活動の実際と課題を理解する。				
単位	時間	内 容			授業方法
1	東 (20)	I 医療安全と看護の責務 II 医療安全施策と医療の質の評価 III 事故発生のメカニズムと防止対策 IV 看護における安全対策 1. 看護業務と事故発生要因 2. 医療事故の種類と安全対策 1) 誤薬、患者取り違い、針刺し、転倒転落、誤飲、 2) 異物遺残、皮膚障害、医療機器・器具のトラブル、 3) チューブ類のトラブル、輸血 V 医療事故後の対応 VI 看護業務上の危険と防止策 1. 感染の危険を伴う病原体への暴露 2. 医療機器・器材の使用に関わるもの			講義 演習 レポート
	木原 (4)	VII 医療機関における看護安全対策の実際 1. 組織での医療事故 2. 事故の原因とその分析(sehll分析) 3. 安全対策の検討および実施 VIII 看護学生の実習と安全 1. 実習における事故の法的責任と補償 2. 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応 3. 習得すべき看護技術のリスクと安全			
災害看護	古賀 (2)	I 災害および災害看護に関する基礎的知識 II 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備え III 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響 IV 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動			
国際看護	JICA (4)	I 国際社会の現状と国際看護活動の課題 II 異文化理解と国際看護活動 III 国際看護活動の実際			
テキスト	ナーシングメディカ EX1 医療安全 (メディカ出版) 医療安全ワークブック (医学書院)				
評価方法	出席・試験・レポート・授業への参加姿勢				

科目	統合技術演習		展開時期	3年次前期	単位数	1
			担当教員	堀 由美子 徳原 多賀子	時間数	30
ねらい	事例を通して緊急・突発の要件下での状況判断力と対応力を養う。					
目標	1. 模擬患者の急変場面において、医療安全・医療倫理を踏まえたフィジカルアセスメントと診療補助行為が実施できる。 2. 複数の模擬患者へ看護を行う際の業務の調整・安全確保の行動が取れる。					
単位	時間	内 容				授業方法
1	30 (2) (16)	I 症状とフィジカルアセスメントの活用 II フィジカルアセスメント事例演習 1. 呼吸器症状出現患者の診察・援助 2. 循環器症状出現患者の診察・援助 3. 消化器症状出現患者の診察・援助 4. 脳神経症状出現患者の診察・援助 (10) III 複数患者受け持ち演習 1. 点滴静脈注射演習 2. 検査時の看護(心臓カテーテル検査)技術演習 3. 複数患者受け持ち演習 (2) IV 統合演習まとめ 1. 医療安全、倫理、医療チームとしての看護				講義 演習
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) EX1 医療安全 (メディカ出版)					
評価方法	出席・レポート・技術試験・授業への参加姿勢					

科 目	在宅看護論実習		展開時期	3年次後期	単位数	2
			担当教員	南田 直子 由澤 和代	時間数	90
ねらい	地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅ニーズに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族を総合的に理解する。 2. 在宅療養者とその家族のニーズに応じた看護実践を学ぶ。 3. 在宅療養者および家族の人格や価値観を尊重し、自己決定を支援する態度を身につける。 4. 在宅ケアを支える看護師の役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる能力を養う。 5. 在宅看護論実習をとおして自己の看護観を深める。 					
単位	時間	内 容				授業方法
2	90	<p>I 在宅療養者とその家族についての理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 療養者の全体像の把握 2. 家族の状況 3. 療養者と家族にある課題とニーズ <p>II 在宅療養者の在宅ニーズに応じた看護実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護計画立案および日常生活行動の自立支援 2. 在宅における医療ケアの実際 3. 終末期看護の実際 <p>III 在宅療養者と家族の人格や価値観の尊重, 倫理的判断に基づいた態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者と家族の人格や価値観・自己決定を尊重した態度 2. 訪問看護における訪問時のマナー <p>IV 在宅ケアを支える看護師の役割と、他職種との連携・協働</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会資源の種類と機能、連携方法 2. ケアマネジメントの実際 3. 在宅看護における看護師の役割 <p>V 在宅看護実習をとおしての自己の看護観</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護をとおしての看護観 2. 在宅看護の課題と自分自身の課題 <p>*具体的には実習要項参照</p>				実習
テキスト						
評価方法	在宅看護論実習 評価表に基づく評価					

科 目	統合実習		展開時期	3年次後期	単位数	2
			担当教員	河村 晶子	時間数	90
目的	医療チームの一員として看護実践を行うために必要な状況判断力、チームにおける調整力、看護技術力を養う。					
目標	1. チーム医療を行うための看護師長・チームリーダー・チームメンバーの役割を学ぶ。 2. 複数の患者に対し、安全で個別性をふまえた看護を実践する。 3. 複数の患者への看護を実践するための状況判断の仕方、業務調整の仕方を学ぶ。 4. 医療チームの一員として看護を実践するための自己の課題と目標を明確にする。					
単位	時間	内 容				授業方法
2	90	I 病棟の看護管理の実際 1. 病院組織における看護管理 2. 病棟管理者の役割と業務 II 看護チームのメンバーおよびリーダーの役割 1. 他部門およびチームメンバー間の調整方法 2. チームの一員としての看護業務の遂行 3. 複数の受け持ち患者の状態把握 4. ケアの優先順位の判断および時間管理 III 安全性を考慮した診療の補助の準備 IV 卒業時到達すべき看護技術の習得状況の確認 V 看護師としての自己の目標や課題の明確化 *具体的には実習要項参照				実習
テキスト						
評価方法	統合実習評価表をもとに評価					